

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|--------------|-------------|---|--------------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | コミュニケーション英語Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 前期 木曜6限 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担 当 教 員 | ILC講師 | 実務経験とその関連資格 | 英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 会話の上達に焦点を当て英会話の授業です。1年生後期で学んだ内容を踏まえて、日常で役立つトピックについての会話が自信をもってできることを目指します。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 定期試験70%、平常点30% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| Talk a lot 2, EFL Press | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。オンラインでの学習(リスニング、文法など)が可能です。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 挨拶、自己紹介の復習をし、他己紹介を英語でできるようになる 比較の表現を(比較級、最上級)使うことができるようになる | Talk a lot 2 | L.1, L.2 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | L1 Talkopoly (P2-3)の復習 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 仕事について相手に質問をし、話すことができるようになる。 | Talk a lot 2 | L3 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人を表す形容詞、好みや所有物についての表現を学ぶ | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 道の説明ができるようになる | Talk a lot 2 | L4 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 場所を尋ねるための表現、感謝の気持ちを表す表現を学ぶ | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 旅行の計画について話、予約やチェックインができるようになる | Talk a lot 2 | L5 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 予約、チェックインの表現を学ぶ | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 過去のことについて話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L7 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 単純過去、過去完了、時間について学ぶ | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 過去のことについて話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L12 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 単純過去 (When)、ストーリーを説明するための表現を学ぶ | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 経験について話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L6 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 現在完了形 (have you ever-), never, either, neither を学ぶ | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 食べ物について話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L8 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 命令形や、食や好みについての表現を学ぶ | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 提案や招待を英語でできるようになる | Talk a lot 2 | L10 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 助動詞の使い方や、招待の仕方、道の説明、電話での伝え方を学ぶ | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | レストランで丁寧に注文できるようになる | Talk a lot 2 | L11 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事の注文方法や、食べ物についての説明表現を学ぶ | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ショッピングで値段やサイズを確認することができるようになる | Talk a lot 2 | L13 |
| | | 各コマにおける授業予定 | サイズや価格の尋ね方を学ぶ | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 助動詞を使ってアドバイスをすることができるようになる | Talk a lot 2 | L14 |
| | | 各コマにおける授業予定 | should, would, couldの使い方を学ぶ | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 映画やテレビについて話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L16 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 映画やテレビ番組の好みや、Whの疑問文を学ぶ | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 希望や夢について話すことができるようになる | Talk a lot 2 | L15 |
| | | 各コマにおける授業予定 | Wishをつかった希望や夢について語る表現方法を学ぶ | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 試験準備・復習を行い、学びを深めることができる。 | Talk a lot 2 | 教科書(学んだ範囲)の復習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学期末・総復習を行う。 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|---|--|-----------------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 教育原理 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 土曜3限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 山本起九衛 | 実務経験と その関連資格 | 大阪府立学校教諭・教頭・校長、大阪府教育委員会指導主事、大阪教育大学教育学部等の非常勤講師を経験 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 「教育原理」は、教育の原理・原則的な内容を追究するというより、保育の重要な内容の1つの教育について、教育の理念ならびに教育に関する歴史(幼児教育の歴史)および教育思想の概要を広く理解できる(する)学習内容とします。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 学期末試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書:新・基本保育シリーズ②「教育原理」(2019年1月10日発行:中央法規出版) 参考図書:保育所保育指針、保育所保育指針解説 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| ①教科書を事前に読んでおくこと ②授業終了時に示す課題を実施しておくこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 保育所(幼稚園)や学校での「教育」が自分たちにとってどのような意味を持っているのか、学校の先生や保育所(幼稚園)・学校は何のためにあるのか、これまで児童生徒の立場で見てきた教育を、今度は教える・指導する立場で考えてみましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 科目の位置づけ、学習目標、授業の概要のそれぞれが説明できる | | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと | |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育士資格取得における科目の位置づけと授業計画等についての講義 「教育原理」の学習目標、授業の内容や概要を理解する | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 保育者になるための教育と学びの基本を説明できる | | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 「教育とは何か」など、教育の意義について講義(解説)する 教育・保育を実践するものになるため、教育を学ぶ意味や教育の基本的な事項を理解する。 | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 教育は、明確な意図(目的)をもって行われることについて説明できる | | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと | |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育(教育的行為)は、明確な目的を持つことについて、また教育を規定している、憲法や教育基本法等教育関係法規等の教育理念・目的・目標等について講義(解説)。教育の目的等について理解する | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児期の教育の特性について説明できる | | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと | |
| | 各コマにおける授業予定 | 乳幼児期の教育で育みたいこと、育むものの方、考え方、育み方やその過程のあり方について講義(解説) 今後の乳幼児期の教育における課題等について理解する。 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 教育と子ども家庭福祉の関連性について説明できる | | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと | |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育と子ども家庭福祉の関連について講義(解説) 教育と子ども家庭福祉の関連について、児童福祉法の理念、子育て支援新制度、保育所と小学校の接続、育ちの連続性について理解する。 | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|--|-----------------------------------|---|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもの人間形成と家庭・地域社会が果たす役割について説明できる。 | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 子どもの教育(保育)において家庭や地域が果たす役割について講義教育基本法や保育所保育指針にある家庭教育や地域の教育力の意味について理解する | | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 近代以降の諸外国の教育思想のいくつかが説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 近代教育に大きな影響を与えたヨーロッパの教育思想家たちと、その思想について講義(解説) 近代以降の欧米の教育思想家と思想を理解する | | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 近代国家誕生の地、ヨーロッパの教育の歴史の概要が説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 19世紀から20世紀の英独仏に焦点を当て、それぞれの歴史と公教育の進展について講義(解説) 諸外国(主に英独仏)の教育の歴史についての概要を理解する。 | | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本の江戸時代から現在までの教育思想・歴史の概要を説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 江戸時代から現在まで子どもの教育に関してどのような思想を育んできたのかの概要を講義(解説) 日本の江戸時代から現在まで、どのような価値観を持ち、どのような教育を受け、学習してきたかを理解する。 | | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本と欧米の近代的子ども観と教育観の概要が説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 日本とヨーロッパの子ども観と教育観について、その登場の背景、および歴史の変遷について講義(解説) ヨーロッパおよび日本において、ほぼ同時期の17世紀ごろから近代的子ども観が広がっていったことを理解する | | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本の教育制度の基本について概要的に説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育の制度化の状況と学校の特徴など教育制度の基本的なことを講義近代以降の教育は、対象が拡大され、体系化が図られ、制度としての学校が整備されていくことを理解する。 | | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本の現在の教育について、現行法の規定内容の概要と教育行政のがいようを説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 日本の教育について、憲法、教育基本法等の規定内容と教育行政について講義 教育において何が大切にされ、何をめざされ、どのようにされようとしているかを理解する。 | | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 欧米の主な国々とアジアの主な国の教育制度の概要が説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 主にアメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国の教育制度の概要を講義(解説) 諸外国の教育制度(学校教育)の概要を理解し、視野を広げる | | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 教育実践の基の教育・保育のカリキュラムの基本的な考えが説明できる | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育・保育の計画の基礎となるカリキュラムの基本的な考え方、日本の保育内容・保育方法の特徴を講義 カリキュラムの基本的な考え方を理解し、日本の保育内容、保育方法の特徴を理解する。 | | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生涯学習概念と日本における生涯学習における教育の現状と課題の概要を説明できる。 | ・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」 ・配布資料 | 既習全学習(教科書等)を振り返り、しっかりと復讐しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 生涯学習社会の生涯学習の基本と、日本における生涯学習について講義 生涯学習社会と生涯学習の基本について理解する。 | | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|----------|-----------------|---------|-----------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 子どもの食と栄養 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 昼主2年 | 学期及び曜時限 | 前期 月曜7限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 山野 葉子 | 実務経験と その関連資格 | | | |

《授業科目における学習内容》

- ① 食の意識をもつ(自分の食生活の見直し、体格・身体組成の評価)
- ② 「食生活指針」、食生活の変化と問題点(生活習慣病、朝食欠食、こ食、豊かさと多様性など)
- ③ エネルギーと体重の関係、栄養素の種類と役割、水分の役割と脱水、食事の選び方、食べ方と健康

《成績評価の方法と基準》

教科終了試験;70% 出席評価点;20% 平常評価点;10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「子どもの食と栄養」改訂第3版 中山書店

《授業外における学習方法》

乳幼児や保護者を適切に導くには、保育者自身の正しい知識と実践が土台となります。「食と栄養」を学びながら、自分の食生活を見つめ、食と身体の関係について観察してみましょう。また、実習先では給食や間食の内容・子ども達の様子を観察し、どのような声掛けや指導が行われているか(食育)、子どもとその家族がどのような問題を抱えているのかなどを学びましょう。

《履修に当たっての留意点》

現代日本における食は、食文化の多様化や食品加工技術の進歩などにより複雑さを増していると言えます。正しい情報の取捨選択と健やかな食生活の実践のために、基本的な栄養の知識を身につけ、子どもたちの健やかな成長の支援を目指しましょう。

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---------------|-------------|--|----------------|-------------------------------------|
| 第1回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食と身体との関係を理解する。「何」を「どのように」「いつ」「どのくらい」口から取り入れるかによって、身体に与える影響が異なることを知る。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | 自分の食生活について意識する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション:食と身体の関係 | | |
| 第2回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 栄養状態を評価する方法を学び、成長段階や身体活動量に見合った栄養の重要性に気づく。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | 自分の体格評価を通して、体型に関する概念について考察を深める。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第1章 子どもの健康と食生活:乳幼児の栄養アセスメント(体格評価法) | | |
| 第3回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもの食と栄養を学ぶ意義を理解する。現代の子どもの栄養・食生活の現状と課題について理解し、説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | 現代の食生活の現状と子どもへの影響をより深く考察する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第1章 子どもの健康と食生活:乳幼児の食生活の現状(朝食欠食・偏食の問題と対応) | | |
| 第4回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 現代の子どもの食の課題と対応について学び、説明できる(こ食、噛まない)。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | 普段の食事での咀嚼を意識し、食後の食欲や消化状況との関連性を観察する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第1章 子どもの健康と食生活:こ食・噛まない子の問題と対応 | | |
| 第5回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 栄養・栄養素の概念を理解するとともに、栄養素の名前と栄養素の体内での役割、エネルギーについて説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P26～29を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識①(消化吸収・栄養素と食品の基礎) | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|---|----------------|--|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 加工食品の栄養成分表示を正しく読み取り、健康食品の分類について説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・加工食品の栄養成分表示や機能性表示を観察し、食品選択に役立てる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識②(栄養成分表示と健康食品) | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 糖質と食物繊維について、分類と体内ではたらきについて説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P32,33,40を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識③(糖質と食物繊維) | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | たんぱく質の特徴と体内ではたらきについて説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P30,31を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識④(たんぱく質) | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 脂質の分類と体内ではたらきについて説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P30,31を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識⑤(脂質) | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ビタミンの体内ではたらきについて説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P34,35を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識⑥(ビタミン) | | |
| 第11回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 現代の食生活において過剰または不足が問題となっているミネラルをそれぞれ挙げ、その理由と食生活の改善方法について説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P36,37を読む。 ・自分の食生活を見直す。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識⑦(ミネラル) | | |
| 第12回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 体内での水分の役割、水分量と年齢による変化、脱水に対する注意点が説明できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P40,41を読む。 ・脱水予防に関する具体的な対応策を実践する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養・食に関する基本的知識⑧(水の役割と重要性) | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本人のエネルギー・栄養素の摂取基準である「日本人の食事摂取基準」の特徴と、子どもに必要な量の基準を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | 教科書P42～47を読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養に関する基礎的知識 ⑨(日本人の食事摂取基準) | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 「食事バランスガイド」の活用方法を理解し説明できる。 献立作成や調理の仕方を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P107を読む。 ・自分の食生活に「食事バランスガイド」の考え方を取り入れる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第2章 栄養に関する基礎的知識 ⑩(食事バランスガイド) | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 行事食の由来や込められた意味を説明できる。各地の郷土料理を挙げることができる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書P86, 89, 105,108,116を読む。 ・行事食や郷土料理について調べる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第1章・第2章コラム | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|-------|-----------------|---------|-----------|---------------|
| 学 科 | 保健保育 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 保育者論 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | 学期及び曜時限 | 前期 水曜7限 | 教室名 | 合同302教室 |
| 担 当 教 員 | 藤原 範子 | 実務経験と その関連資格 | | | |

《授業科目における学習内容》

1. 保育の場や保育者に関する専門的知識を習慣し、保育職の魅力・保育現場が求める保育者像について理解する。
2. 子どもの育ち、親たちの状況、地域社会の実態を知り、保育者の役割を理解する。
3. さまざまな保育実践や保育者の姿に関心をも広げ、保育の専門性を理解し、自らの保育者像を展開、展望する。
4. 事例や関連資料、視聴覚教材などを用いて、ディスカッションやグループワークをして、気付きや共有の機会とする。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験 70%
2. 出席点 20%
3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考テキスト 保育者論(中央法規・みらい)

《授業外における学習方法》

予習として、授業終了時に次回の予告をします。それに関連する保育や乳幼児や子どもを取り巻く時事ニュースに関心を持って読んでみる。授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る。復習として、再度、授業で学んだ部分のプリントを読む。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

子どもも保育者も「楽しくなる」保育を目指して、職業としての保育者の役割と責任を理解しそれをしっかり自覚していけるようにする。また、自分の、目指す保育者像の確立の機会にもしましょう。

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------------------|-------------|--|--|--|
| 第1回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育者の制度的位置づけについて説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション。保育者を取り巻く法律や制度について学ぶ。保育者を志望した動機と将来像について考える。 | | |
| 第2回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育者の倫理について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者としての専門的倫理の概念と必要性、魅力的な保育者について考える。 | | |
| 第3回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育の日常について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者の一日の流れを理解する。具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざしを学ぶ。 | | |
| 第4回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育実践における保育者の役割について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者の役割を考える。公的保育施設における保育実践の特色と事例より学ぶ。 | | |
| 第5回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育実践において、特別配慮を必要とする子どもたちへの保育者の役割について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者の役割を考える。特別配慮(障害のある・気になる・家庭環境に配慮の必要)を必要とする子どもについて事例より学ぶ。 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|--|--|--|
| 第6回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 保育者の多様化する職務内容について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者の職務内容において、保育を行う以外の多様化する役割について事例より学ぶ。 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 養護及び教育の一体的展開について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 専門家として、保育者の養護及び教育の一体的展開における援助技術の向上について子どもとのかかわりから、事例を通して学ぶ。 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 保育者の資質と能力について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 専門家として、子どもの遊びと育ち・求められる資質と能力について、子どもとのかかわりから、事例を通して学ぶ。 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | より良い保育のための計画に基づく保育の実践と省察・評価について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育の計画、記録と評価、省察などプロセスの必要性、具体的なあり方について学ぶ。保育の質の向上させる手立てについて学ぶ。 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | それぞれの行事の意義と役割について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育現場における行事の意義と役割や必要性から、子どもが主体的に参加するための保育者の役割、保育者にとっての行事について学ぶ。 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 家庭との連携と保護者に対する支援について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 家庭との連携と保護者に対する子育て支援との関係、子どものより良い育ちのための保育者の求められる姿勢について実際に学ぶ。 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 関係機関等との連携について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 関連機関(地域型保育・地域社会)との連携・協働～連携の必要性和保育者の役割について学ぶ。 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 資質向上に関する組織的取組について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 職員の資質向上を踏まえ、より良い組織運営・保育者像を目指すために、様々な失敗の事例や研修の必要性を通して学ぶ | | |
| 第14回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義について説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 事前に指定した内容の記事や情報を読む。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。指示した課題をしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育者の専門性の向上(キャリアパス)の道筋について考え、代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について学習する。 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 保育におけるリーダーシップについて説明できる。 | 参考教材:保育者論(中央法規・みらい)配布資料保育所保育指針・解説、実践ガイドブック(中央法規) | 既習全学習(資料配布等)を振り返り、しっかりと復讐しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育の質を組織的に高めるため、保育者同士の協働し、学びあう事の必要性和、個々の保育者の力を発揮できるリーダーシップについて学ぶ。 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|----------|-----------------|--------------------------------------|------|-----------------------|-----------------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 国際保育概論 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 保健保育科教員 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>アメリカの幼児教育における取り組みや現状を幅広く学ぶ。アメリカは、様々な民族・人種、宗教など多文化社会であることから、幼児教育は非常に発達している。講義や施設見学を通し、子どもの発達過程や幼児心理学、アメリカの子どもたちを取り巻く問題や幼児教育などの専門知識や最先端の教育的アプローチについて理解を深める。学習を通じて、日米の保育の違いについて、自身の考えを述べることができる。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>受講や施設見学時の態度や積極性 40% レポート提出 60%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>なし</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>発達障害、児童虐待とネグレクトなどアメリカの幼児を取り巻く環境について調べておく</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>海外の幼児・児童教育制度と文化を学び、実際に見学体験をします。外国、異文化圏の保育観や制度に触れ、保育領域の展望や課題について学ぶ機会となりますので海外研修を楽しみにしていきましょう。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 海外研修の意義・目的の再確認できる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもを守る制度や被虐待者に対する支援について述べる事ができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童虐待とカウンセリング手法について講義 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通所する子どもの障害や必要な支援について述べる事ができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童発達センターを見学 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 米国の幼児教育について説明できる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 米国の幼児教育の概要について講義 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 講義や施設見学を振り返りアメリカの幼児教育の特徴について述べる事ができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 振り返り | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|---------------------------------------|------|-----------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 共通の社会問題や課題について意見交換し、自分の意見を述べることができる。 | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学生研究発表会 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 共通の社会問題や課題について意見交換し、自分の意見を述べることができる。 | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学生研究発表会 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通園する子どもに必要な支援について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学童保育所の見学 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究発表や施設見学を振り返りアメリカの幼児教育の特徴について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 振り返り | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所する子どもに必要な支援について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発達障害施設を見学 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | センターの役割について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童虐待センターなどの見学 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 本研修で学んだアメリカの幼児教育や児童福祉制度について説明することができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめおよび振り返り | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|-------------|------------------------------|---|---------|----------------------|---------------|
| 学 科 | 保健保育 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 実習 |
| 科 目 名 | 幼児体育 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 火曜6限 | 教室名 | 体育室 |
| 担 当 教 員 | 原 裕 昭 | 実務経験とその関連資格 | 小学校教諭一種免許、中学・高校保健体育一種免許保持。幼児体育に関する論文の執筆。高等学校での実務経験有り。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育現場における幼児体育指導者としての専門的な力と専門技能を身につける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 実習実技点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 特になし。必要時に資料を配布する。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 幼児体育指導者として必要な体力をつけるため、生活習慣を整えておくこと。 授業内容を復習すること。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 学校指定の体操服とシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。 また、腕時計やピアス、ネックレスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、すべて取り外すこと。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 本講義の進め方について理解することができる。 | | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 幼児期における運動の重要性について説明することができる。 | | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児期における運動の重要性について学ぶ。 | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | からだを使う運動を実践し説明することができる。 | | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、からだを使う運動遊びについて学ぶ。 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | ごっこ遊びを実践し説明することができる。 | | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、ごっこ遊びについて学ぶ。 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 用具を使った遊びを実践し説明することができる。 | | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、用具を使った遊びについて学ぶ。 | | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------|----------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 用具を使った遊びを実践し説明することができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、用具を使った遊びについて学ぶ。 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 移動道具を使った遊びを実践し説明することができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、移動道具を使った遊びについて学ぶ。 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 移動道具を使った遊びを実践し説明することができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、移動道具を使った遊びについて学ぶ。 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | サーキット遊びを実践し説明することができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児を対象とした、サーキット遊びについて学ぶ。 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 指導案を作成できるようになる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 指導案を作成するうえで重要な点を理解し、指導案の書き方について実際にグループで作成しながら学ぶ。 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 指導案をもとに幼児の運動指導ができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う。 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 指導案をもとに幼児の運動指導ができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う。 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 指導案をもとに幼児の運動指導ができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う。 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 指導案をもとに幼児の運動指導ができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習し次回の授業に備えること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う。 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 様々な運動遊びの特性を理解し、個人にあった援助ができる。 | 配布資料 | 授業内容を復習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | これまでに学んだ運動遊びを復習し、個人の発達に合わせた援助について学ぶ。 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|---------|-----------------|----------------------------------|------|-----------------------|-----------------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 国際保育概論Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 保健保育科教員 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>アメリカの幼児教育における取り組みや現状を幅広く学ぶ。アメリカは、様々な民族・人種、宗教など多文化社会であることから、幼児教育は非常に発達している。講義や施設見学を通し、子どもの発達過程や幼児心理学、アメリカの子どもたちを取り巻く問題や幼児教育などの専門知識や最先端の教育的アプローチについて理解を深める。学習を通じて、日米の保育の違いについて、自身の考えを述べることができる。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>受講や施設見学時の態度や積極性 40% レポート提出 60%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>なし</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>発達障害、児童虐待とネグレクトなどアメリカの幼児を取り巻く環境について調べておく</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>外国、異文化圏の保育観や制度に触れ、保育領域の展望や課題について学ぶ機会となります。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | アメリカ幼児教育の意義・目的の再確認 | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもを守る制度や被虐待者に対する支援について述べることができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童虐待とカウンセリング手法について講義 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通所する子どもの障害や必要な支援について述べるができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 米国児童発達センターについて講義 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 米国の幼児教育について説明できる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 米国の幼児教育の概要について講義 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 講義を振り返りアメリカの幼児教育の特徴について述べるができる | なし | | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 振り返り | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------------|-------------|--------------------------------|------|-----------------------|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 共通の社会問題や課題について自分の意見を述べることができる。 | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学生研究発表会 | | |
| 第7回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 共通の社会問題や課題について自分の意見を述べることができる。 | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学生研究発表会 | | |
| 第8回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通園する子どもに必要な支援について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学童保育所の見学 | | |
| 第9回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通園する子どもに必要な支援について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学童保育所の見学 | | |
| 第10回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第11回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第12回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本とは異なる幼児教育について理解を深める | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例検討 | | |
| 第13回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所する子どもに必要な支援について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発達障害施設について講義 | | |
| 第14回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 児童虐待センターの役割について述べるができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童虐待センターについて講義 | | |
| 第15回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アメリカの幼児教育や児童福祉制度について説明することができる | なし | 事前に配布したプログラムを確認しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめおよび振り返り | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|-------------|--|---|---------------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 障害児保育 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 土曜1限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 長谷川 祥 | 実務経験とその関連資格 | 保育教諭3年、特別支援学校講師2年 保育士・特別支援学校教諭1種免許状・修士課程 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 障害児保育を支える理念に関して認識を深め、保育所と障害乳幼児通園施設等の保育の変遷と課題を理解する。また様々な障害の理解と障害児ごとの発達に留意した保育ニーズと保育方法を理解し、現場で実践できるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書は使用しない 参考図書:「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説」、その他適宜使用する | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業で学んだことを、実習や日常生活で出会う障害を持った子どもたちとの関わりの中で活かす | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 障害や障害のある子どもに対する関心をもち、障害のある方に対しての偏見、先入観をなくしてほしい | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 我が国における障がい児・者の現状を理解し説明できる ICFの概要を理解し説明できる | | PC プロジェクター | 配布プリントを読む | |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション 障害児・者の現状、「障害」の捉え方の変遷とICFについての講義 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | ノーマライゼーション、インテグレーションとインクルージョンの違い、合理的配慮とは何かを理解し説明できる | | プリント | 配布プリントを読む | |
| | 各コマにおける授業予定 | ノーマライゼーションの考え方についての講義 障害児保育の形態(インテグレーション、インクルージョン)についての講義 「合理的配慮」についての講義 | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 肢体不自由について理解し説明できる | | プリント | 配布プリントを読む | |
| | 各コマにおける授業予定 | 肢体不自由の特徴についての講義 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 肢体不自由児への援助方法を考え実践できる | | ワークシート | 配布プリントを読む | |
| | 各コマにおける授業予定 | 肢体不自由児への援助方法についての演習 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 知的障害について理解し説明できる | | プリント | 配布プリントを読む | |
| | 各コマにおける授業予定 | 知的障害の定義、特徴についての講義 | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|------------------------------|--------|-------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 知的障害児への援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 知的障害児への援助方法についての演習 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 視覚障害について理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 視覚障害の特徴についての講義 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 視覚障害児への援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 視覚障害児への援助方法についての演習 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 聴覚障害について理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 聴覚障害の特徴についての講義 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 聴覚障害児への援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 聴覚障害児への援助方法についての演習 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 言語障害について理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 言語障害の特徴についての講義 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 言語障害児への援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 言語障害児への援助方法についての演習 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 重症心身障害と医療的ケアについて理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 重症心身障害と医療的ケアについての講義 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 重症心身障害児と医療的ケア児への援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 重症心身障害児と医療的ケア児への援助方法についての演習 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 前期に学んだことを理解し説明できる | | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前期まとめ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|----------|-----------------|--------|-----------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 子どもの食と栄養 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 山野 葉子 | 実務経験と その関連資格 | | | |

《授業科目における学習内容》

- ①人の一生をライフステージに沿って、その時期の特徴と食生活との関わりについて学び、注意点・問題点を考察する。
- ②特に「乳幼児期」の発育の特徴と食との関連は、歯の萌出と咀嚼・間食の役割・偏食や問題行動など詳しく学ぶ。
- ③免疫力の低い乳幼児への衛生管理を学び、調理に活かす。ノロウイルス対策や食物アレルギーについても学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

教科終了試験;70% 出席評価点;20% 平常評価点;10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「子どもの食と栄養」改訂第3版 中山書店

《授業外における学習方法》

- ①実習先で、食に関する児の様子と先輩保育士さん達の声掛け・指導の仕方を学んでくる。例えば「偏食」にはどのように対応されていますか？その対応で児はどのように変わりますか？
- ②食物アレルギー児が増えています。重症化しています。食物アレルギーについての基礎知識と対応を調べましょう！
- ③調理に関心を持ち、買い物に行って食材料の価格を調査、また調理ができるよう練習しておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

人の一生に渡る健康は、連続性を持ってつながっています。出生時はもちろん、人の健康は妊婦の妊娠前～妊娠中の食生活と健康度が大きく左右します。高齢になってからの健康も、子どもの頃からの食生活が大きく影響します。中でも重要で取り返しのつかないのが成長期、特に乳幼児期です。保育士はその点を認識し、支援できる力を養いましょう。

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---------------|-------------|--|----------------|-----------------------|
| 第1回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人の一生をライフステージごとにみて、特徴と食生活との関連性・問題点の要点に気づく。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第3章;子どもの発育・発達と食生活 ① 生命の誕生準備・妊娠・出産～ライフステージ全体の概要 | | |
| 第2回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食欲、味覚、嗜好の基本を理解する。子供のころの味覚や嗜好がその後も影響することを理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 ③乳幼児の味覚機能の発達と食事提供 | | |
| 第3回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 咀嚼嚥下機能の発達と重要性を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 ②乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供 | | |
| 第4回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもの消化器官の機能が未熟であることを理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第3章;子どもの発育・発達と食生活 ④乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供 | | |
| 第5回 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食中毒の種類や特徴を知る。発生原因や予防を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・ノロウイルスや食中毒について調べておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 第6章 食の安全 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------------|-------------|--|---------------------------|--|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 母乳と人工乳それぞれの利点と問題点を説明できる。母乳栄養を支援できる。人工栄養の調乳法と衛生管理ができる(実習)。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 ・エプロンなど | ・ドラッグストアなどで、育児用ミルクを観察し、どんな種類があるか調べ、作り方の説明を読んでおく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 ⑤乳児期栄養(乳汁栄養) | | |
| 第7回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 離乳食や幼児期の食事の硬さや塩分濃度を知る(実習)。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 ・エプロンなど | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 味覚機能、離乳食 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 離乳食の役割や進め方を理解する。介助ができるようになる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・ドラッグストアなどで、離乳食としてどのようなものが販売されているか調べておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 ⑤乳児期栄養(離乳食期栄養) | | |
| 第9回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児期の食生活(3食+間食)を理解する。年齢における食事動作の目安や介助を知る。学童・思春期の特性について理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・子どもの間食について、調べたり観察したりしておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第3章 子どもの発育・発達と食生活 ⑥幼児期栄養 ⑦学童・思春期の栄養 | | |
| 第10回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食育基本法について理解する。食育推進の必要性を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第4章 食育の基本と実践 ①～③ | | |
| 第11回 | 演習 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食育推進の計画・実施・評価ができるようになる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・どのような「食育」が必要か考えておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第4章 食育の基本と実践 ④～⑥ | | |
| 第12回 | 演習 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭や各施設での食事の提供や支援の仕方を理解する。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・日本型食生活の配膳方法を確認しておく。 ・食事マナーを調べておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第5章 児童福祉施設や家庭における食と栄養 | | |
| 第13回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食物アレルギーの基本を説明できる。食物アレルギーを持つ子どもや保護者を支援できる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・食物アレルギーについて調べたり、情報収集しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①食物アレルギー | | |
| 第14回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 特別な配慮を要する子どもの対応ができる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②～⑩ | | |
| 第15回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1年間の授業を振り返り学びを深めることができる。 | ・教科書「子どもの食と栄養」 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 第1章～第7章 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|--------|-------------|---|---|--|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科目区分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 月曜日6限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担当教員 | 渡部 仁美 | 実務経験とその関連資格 | 児童養護施設にて児童指導員として勤務。日々の生活支援から児童の自立支援、保護者対応、などケアワークとケースワークを実施。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>養護問題の現状や背景を事例を通して把握し、児童福祉施設の役割と社会的養護の実際について学ぶ。 また、児童福祉施設の援助者としての保育士の役割と援助を理解し、実践方法を説明できる。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『みらい×子どもの福祉ボックス社会的養護Ⅰ』 ・参考図書:『みらい×子どもの福祉ボックス社会的養護Ⅱ』『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 保育所保育指針、保育福祉指針など | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>予習として、幼児や児童の虐待に関する時事ニュースに関心を持ち、家族や友人などと意見交換を行い、自分の考えをまとめる。また、施設実習後は、授業で得た知識を実際に施設実習での体験を関連付けしておく。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>社会的養護は身近にあるものです。保育士として真剣に向き合わなければならない課題です。 「子どもの最善の利益のために」「すべての子どもを社会全体で育む」実践方法を身に付けましょう。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 『社会的養護』とは何か、自分の言葉で説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ボックス社会的養護』 ・配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 授業概要の説明 『社会的養護』の必要性について理解する。 (社会的養護Ⅰの振り返り) | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | しつけと虐待の違いについて、自分の考えをまとめる。 虐待を発見した時の保育士としての対応について、示すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・動画視聴 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 『しつけと虐待の境目』について動画視聴や配布資料を元に考える。 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設養護に関わる職員の役割と倫理について説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・参考図書:『みらい×子どもの福祉ボックス社会的養護Ⅱ』『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 『職員(保育士)の役割と倫理』『施設養護の展開』『施設養護のインケア』の概要について理解する。 | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 事例分析を通して、児童養護施設での支援の実際と関係機関との連携について説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・第3回授業での配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事例をもとにした児童養護施設での支援の実際について理解する。 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子ども虐待の背景にある、①人的な課題、②生活・環境面の課題には、それぞれどのようながあるか、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ボックス社会的養護』 ・配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 『社会的養護におけるソーシャルワーク』の必要性について、理解する。 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|---|---|--|
| 第6回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 『バイスティックの7原則』について説明できる。 自己覚知し、自身の価値観について把握できる。 | ・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『ケースワークの概要』について、理解する。 対人援助者としての倫理について理解する。 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 事例分析を通して、乳児院での支援の実際と関係機関との連携について説明することができる。 | ・配布資料 ・参考図書:『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護Ⅱ』『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 | ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 事例をもとにした乳児院での支援の実際について理解する。 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | ジェノグラム・エコマップを読み取ることができる。また書き示すことができる。支援計画について説明することができる。 | ・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 支援計画に必要な、基本的な個別記録の種類について理解する。 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 事例分析を通して、児童自立支援施設での支援の実際と関係機関との連携について説明することができる。 | ・配布資料 ・参考図書:『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護Ⅱ』『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 | ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 事例をもとにした児童自立支援施設での支援の実際について理解する。 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 情報管理の必要性、重要性を理解し、施設内含めた他機関との連携について、説明することができる。 | ・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『記録と評価(自己評価・第三者評価)』の必要性と策定と留意点について理解する。 『ケース会議』の必要性ともち方について理解する。 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 事例分析を通して、母子支援施設での支援の実際と関係機関との連携について説明することができる。 | ・配布資料 ・参考図書:『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護Ⅱ』『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 | ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 事例をもとにした母子支援施設での支援の実際について理解する。 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 施設養護を取り巻く環境を理解し、説明することができる。 | ・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『関わる専門職』『施設運営』の概要について理解する。 『職員のメンタルヘルス』の概要について理解する。 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 施設養護を取り巻く環境を理解し、説明することができる。 | ・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 | ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『社会的養護に関わる専門機関』の概要について理解する。 『子どもが求める職員とは』の概要について理解する。 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 社会的養護を取り巻く現代の問題について理解し、自身の考えについてまとめる。 | ・配布資料 | ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『子どもに行う性教育』『にんしんSOS』『内密出産』の概要について理解する。 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 社会的養護を取り巻く現代の問題について理解し、自身の考えについてまとめる。 | ・配布資料 ・動画視聴 ・これまでの配布資料全て | ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 『特別養子縁組』『真実告知』の概要について理解する。 これまでの振り返り、まとめ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|---------------|-----------------|--|---------------------------|-----------------------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 音楽Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 火曜日6・7限 | 教室名 | ピアノ室 |
| 担 当 教 員 | 谷 理 香 ・ 近 眞 理 | 実務経験と その関連資格 | ヤマハ音楽教室において、幼児音楽教育全般の指導にあたり、講師の育成に長年携わっていた。大学において、幼児教育学科にて勤務、ピアノ・音楽を主に教えていた。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| ピアノ実技のレベルアップができる。保育の現場で必要とされるリズム遊びや音楽活動の為に様々なリズムや周辺知識を知ることができる。また基本的な理論から簡単な和声までを学び、各人の習熟度に合わせた伴奏付けやアレンジができるようになる。同時に正しい音程とリズムで歌えるようになる。現場で対応できるようなレパートリーがふえていく。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目実技試験 70% 出席評価 30% 平常評価 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| バイエル教則本 ブルグミュラー25の練習曲 ソナチネアルバムなど こどもの歌ベストテン 続こどものうた200など | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習、復習として、課題曲を自己練習をし、ピアノに常に触れ、練習をしておくことが望ましいです。こどもの音程に合わせた声が出るように発声練習も心がけ、子どもが歌っている多くの曲を知ることも心がけましょう。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 音楽教育は幼児の発達、発育にとっても重要な役割を果たしています。継続的に練習を重ね、スキルを上げていくと同時に音楽を使い様々な子どもへのアプローチも考えられるようになります。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1年生の時に身につけたスキルで付点のリズムや16分音符での音階も弾くことができる。ハ長調以外の曲も比較的スムーズに弾き歌うことができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル88番を練習する。「あくしゅでこんにちは」「おててを洗いましょう」「さよならのうた」練習する。 | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 付点のリズムと8分音符の伴奏の曲であるが、リズムを理解し、バランス良く弾くことができる。2曲ともAm、Dm、Emが何度も出てくるが、慣れているのでしっかり弾け、歌うことができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル88番を完成させることができる。バイエル89番を練習する。「あくしゅでこんにちは」「おててを洗いましょう」「さよならのうた」を完成させることができる。「こどりのうた」「おかあさん」を練習する。 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | テンポの速い弱起の曲、同一音の連打などが出てくるが、リズムを正確に楽しく弾くことができる。曲が少し長く、二長調の曲で、色々なコードが出ているが、片手ずつの練習を重ねて、弾くことができるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル90番、92番を練習する。「こどりのうた」「おかあさん」を完成させることができる。「手のひらを太陽に」を練習する。 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | イ短調、8分の6拍子の曲、後半の16分音符と付点のリズムが少し難しいが繰り返し練習で弾くことができる。前奏と間奏がついて、エンディングも少し違うメロディの曲ではあるが、楽しく弾き歌うことができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル90・92番を完成させることができる。バイエル93番を練習する。「手のひらを太陽に」を完成させることができる。「おぼけなんてないさ」を練習する。 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | バイエル1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエルは正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは歌に重点を置き、少し工夫をした伴奏をつけながらも、しっかりと歌えるようになる。 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|--|--------------------|
| 第6回 | 演奏を通じての到達目標 | シンコペーションと1オクターブの音階に16分音符のアルペジオをスムーズに弾くことができる。6度の和音を正確に弾くことができる。物語性のある歌詞を伝えることができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル93番を完成させることができる。バイエル94・95番を練習する。「おぼけなんてないさ」を完成させることができる。「あめふりくまのこ」を練習する。 | | |
| 第7回 | 演奏を通じての到達目標 | 8分の3拍子の速いテンポで右手と左手が同じメルデイを追いかけ、中間部では右手の整った和音を弾くことができる。日本的な伝統的情緒のある曲を弾き歌いできるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル94・95番を完成させることができる。バイエル96番を練習する。「あめふりくまのこ」を完成させることができる。「まめまき」「うれしいひなまつり」を練習する。 | | |
| 第8回 | 演奏を通じての到達目標 | 3度の和音の素早い移動と左手ベース音の保持がスムーズに行え、曳くことができる。ピアノを弾きながら、歌詞に気持ちを込めて歌うことができるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル96番を完成させることができる。バイエル97番を練習する。「まめまき」「うれしいひなまつり」を完成させることができる。「おもいでアルバム」「いちねんせいになったら」を練習する。 | | |
| 第9回 | 演奏を通じての到達目標 | 8分の3拍子、弱起の曲で付点のリズム、速いテンポの曲を弾くことができる。1オクターブのアルペジオの伴奏で軽快に弾き歌いができるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル97番を完成させることができる。バイエル98番を練習する。「おもいでアルバム」「いちねんせいになったら」を完成させる。「森のくまさん」を練習する。 | | |
| 第10回 | 演奏を通じての到達目標 | バイエル1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエルは正確にミスを少なく、強弱を付けて、弾けるようになる。弾き歌いは歌に重点を置き、少し工夫をした伴奏をつけながらも、しっかり歌詞を伝え、歌えるようになる。 | | |
| 第11回 | 演奏を通じての到達目標 | 変ロ長調の曲で少しフラットのついた音階が少し難しいが、流れるように美しく弾くことができる。チャチャチャのリズムを楽しく演奏できる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル98番を完成させることができる。バイエル99番を練習する。「森のくまさん」を完成させることができる。「おもちゃのチャチャチャ」を練習する。 | | |
| 第12回 | 演奏を通じての到達目標 | 16分音符の速いフレーズが連続する曲を正しいリズムで弾くことができるようになる。歌詞を読み聞かせているように伝えながら、弾き歌いできるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン 続こどもの うた200など | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | バイエル99番を完成させることができる。バイエル101番を練習する。「おもちゃのチャチャチャ」を完成させる。「大きな古時計」を練習する。後期テストの課題曲を決める。 | | |
| 第13回 | 演奏を通じての到達目標 | 少し段階を引き上げた課題曲の取り組み、譜読み、リズムの取り方、表現の仕方など音楽的に考え、弾く努力ができるようになる。行事の歌やアニメの歌、自分の好きな歌をアレンジしていくことができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン 続こどもの うた200など | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 各自課題曲に向けて、今までのスキルとここからの新たなスキルを身につけ、丁寧に練習をしていくことができる。伴奏、イントロなどのアレンジを考え、楽譜を作成していくことができる。 | | |
| 第14回 | 演奏を通じての到達目標 | バイエルとは違い、曲が長い、丁寧に練習をして、積み上げていくことができる。色々なコードも使い、歌いながら、弾きやすく、納得できる伴奏を考えていくことができる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン 続こどもの うた200など | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 同じ曲を何度も繰り返し練習し、考え、修正し、作り上げていくことができるようになる。伴奏と歌のバランスの調整を図りながら、練習をしていくことができる。 | | |
| 第15回 | 演奏を通じての到達目標 | いつもより長い時間をかけることにより、曲としての完成度を上げ、音楽を表現することができる。自分が楽しくなるような伴奏で弾き歌いができるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン 続こどもの うた200など | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 反復練習の中にも、問題点や修正点を見つけ、本番で思った通りの演奏ができるように努力ができる。自分の納得したアレンジを本番で楽しく弾き歌いできるようになる。 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|--------|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 保育課題研究 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 土曜4限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 長谷川 祥 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・相談演習である保育問題研究(前期・保育実践演習)で調べたことを、他者に分かりやすく伝える能力を養う。 ・より研究を深め、福祉職としての自覚を養う。 ・卒後も、自己にて研究していくことの重要性に気づく場とする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| グループへの貢献度 提出した課題の内容 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 保育に関する研究論文 関連資料 など | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じて、他者との協同について学ぶ。 ・保育を取り巻く現状に目を向け、これからの保育士に求められる倫理観や技術・知識を自ら見つける。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 前期からの課題を確認し、これからの活動ですべきことを確認することができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループワーク 前期『保育実践演習』での活動内容を振り返る | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 課題を解決するためのデータを数値化することができる | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループワーク 課題を解決するためのデータ作成を実施する。 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 課題を解決するためのデータを数値化することができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループワーク 課題を解決するためのデータ作成を実施する。 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 課題を解決するためのデータを表やグラフにまとめることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 課題を解決するためのデータを表やグラフにまとめることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|----------------------------------|--|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 課題を解決するためのデータを表やグラフにまとめることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 得られたデータを考察し、自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合うことができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 得られたデータを考察し、自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合うことができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 得られたデータを考察し、自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合うことができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合ったことを可視化する方法を検討することができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合ったことを可視化できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 自分達の得たデータから何が読み取れるかグループ内で話し合ったことを可視化できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 結果をまとめる・結果の分析 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | スライド作成と論文作成し、グループで役割分担して実施できている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | PP作成・論文作成 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | スライド作成と論文作成し、グループで役割分担して実施できている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | PP作成・論文作成 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | スライド作成と論文作成し、グループで役割分担して実施できている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | PP作成・論文作成 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|---|--|----------------------------------|--|
| 第16回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 学科内発表に向けて、グループで役割を分担し準備を進めることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | PP作成・発表の準備 | | | |
| 第17回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 学科内発表に向けて、グループで役割を分担し準備が終了する。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | PP作成・発表の準備 | | | |
| 第18回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 学科内発表において、自グループの発表ができる。また、他のグループの発表から、保育領域の課題や伝え方について、気づきを得ることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | クラス内発表 | | | |
| 第19回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 学科内発表を振り返り、自グループに研究内容の過不足をグループ内で考察し、修正・改善を行うことができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | PP修正作成 | | | |
| 第20回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 修正・改善したスライドを完成させることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | PPスライドの提出 | | | |
| 第21回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | グループ内で、学校全体での卒業研究発表会に向けた、準備スケジュールを立てることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 論文作成 発表準備 | | | |
| 第22回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | グループで、学校全体での卒業研究発表会に向けた準備を進めることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 論文作成 発表準備 | | | |
| 第23回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | グループで、学校全体での卒業研究発表会に向けた準備を進めることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 論文作成 発表準備 | | | |
| 第24回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | グループで、学校全体での卒業研究発表会に向けた準備を進めることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 論文作成 発表準備 | | | |
| 第25回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | グループで、学校全体での卒業研究発表会に向けた準備を進めることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 卒業研究発表会 発表準備 | | | |

| | | | | | |
|------|--------|-------------|--|----------------------------------|--|
| 第26回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで、学校全体での卒業研究発表会に向けた準備を進めることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 卒業研究発表会 発表準備 | | |
| 第27回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで学校全体での卒業研究発表会を振り返り、指摘頂いた部分などを踏まえ、論文を修正し、提出することができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の提出 | | |
| 第28回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 担当教員からの修正指示に従い、論文のブラッシュアップを進めることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の修正 | | |
| 第29回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 担当教員からの修正指示に従い、論文のブラッシュアップを進めることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の修正 | | |
| 第30回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1年間に渡る研究活動の集大成として、論文が提出できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の再提出 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|-------|-------------|---|---------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 障害児保育 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 土曜2限 | 教室名 | 本館1202教室 |
| 担 当 教 員 | 長谷川 祥 | 実務経験とその関連資格 | 保育教諭3年、特別支援学校講師2年 保育士・特別支援学校教諭1種免許状・修士課程 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 障害児保育を支える理念に関して認識を深め、保育所と障害乳幼児通園施設等の保育の変遷と課題を理解する。また様々な障害の理解と障害児ごとの発達に留意した保育ニーズと保育方法を理解し、現場で実践できるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書は使用しない 参考図書:「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説」、その他適宜使用する | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業で学んだことを、実習や日常生活で出会う障害を持った子どもたちとの関わりの中で活かす | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 障害や障害のある子どもに対する関心をもち、障害のある方に対しての偏見、先入観をなくしてほしい | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ADHDについて理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ADHDの特徴についての講義 | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ADHDの子どもたちへの援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ADHDの子どもへの援助方法についての演習 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | LDについて理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | LDの特徴についての講義 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | LDの子どもたちへの援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | LDの子どもへの援助方法についての演習 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | PDDについて理解し説明できる | プリント | 配布プリントを読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | PDDの特徴についての講義 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|----------------|-------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | PDDの子どもたちへの援助方法を考え実践できる | ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | PDDの子どもへの援助方法についての演習 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 発達障害児を理解する視点をもつことができる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚統合の視点から発達障害を捉えることについての講義 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 発達障害児を理解する視点をもつことができる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 適応行動の視点から発達障害を捉えることについての講義 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子ども同士がかかわる形態について理解し説明できる 障害に配慮した環境設定を考え実践できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子ども同士のかかわりについての講義 障害に配慮した環境を設定する | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 保護者や家庭に対する支援の必要性とその特徴について理解し説明できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者や家庭に対する支援の必要性とその特徴についての講義 事例を基にして保護者支援の場面をロールプレイングする | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域の専門機関の種類、特徴について理解し説明できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地域の専門機関との連携についての講義 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 就学支援の実際について理解し説明できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 小学校との連携についての講義 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 感覚統合について理解し説明できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚統合についての講義 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 保健・医療の現状と課題、福祉・教育の現状と課題について理解し説明できる | プリント ワークシート | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保健・医療の現状と課題、福祉・教育の現状と課題についての講義 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 後期に学んだことを理解し説明できる | | 配布プリントを読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 後期まとめ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|-------|-----------------|-----------|-----------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
| 科 目 名 | 造形Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | 学期及び曜時限 | 前期 金曜6・7限 | 教室名 | 6階 造形室 |
| 担 当 教 員 | 下地忠司 | 実務経験と その関連資格 | 中高美術科教員資格 | | |

《授業科目における学習内容》

1:造形表現の概要 2:表現の設定、指導の視点 3:幼児の発達段階に於ける造形表現の特質基本的な能力の形成(描く表現の発達過程)(創る表現の発達過程)(幼児の絵画表現の特徴)
4:幼児の造形表現の指導者として(指導の基本的な心構え)(指導者の条件)(指導の展開)
5:実技研究

《成績評価の方法と基準》

1:課題内容の把握 2:適切な素材を用いているか 3:材料の加工・表現技能 4:内容の豊かさ・工夫の度合い 5:テストの評価 6:授業態度 等による評価 絶対評価

《使用教材(教科書)及び参考図書》

1:レジメ・各講義内容に応じたプリントを配布 2:描画材(ポスターカラー・色鉛筆・トーンカラー・クレパス・描画用紙・粘土・木材等)

《授業外における学習方法》

造形の授業は「木目板紙」の「領域「表現」」にのりより、「イロ」を「こ」して「1・2・3」は「も」の「つ」まは「こ」に「対」する「豆」か「な」感「性」を「持」つ。「2」感「じ」た「こ」つ「と」や「考」え「た」こ「と」を「自」分「な」り「に」表「現」し「て」楽「し」む。「3」生「活」の「中」で「イ」メ「ー」ジ「を」豊「か」に「し」、様「々」な「表」現「を」楽「し」む。「と」あ「り」ま「す」。日「本」の「自」然「環」境「や」風「土」に「は」幼「児」が「豊」か「に」表「現」活「動」を「行」う「こ」が「で」き「る」環「境」が「用」意「さ」れ「て」い「ま」す。そ「れ」を「汲」み「取」る「動」き「を」日「頃」か「ら」公「共」の「文」化「施」設(美「術」館「等」)や「イ」ベ「ン」ト、メ「デ」イ「ア」等「を」利「用」し「培」っ「て」い「く」感「性」を「養」っ「て」い「け」れ「ば」と「思」い「ま」す。

《履修に当たっての留意点》

幼児造形教育を学習するにあたって、子供達の身体の発達過程とその年齢に於ける描画的特徴を学習し、現場でどのように子供達に造形活動を促しサポートしたらいいのかを講義において理論的な裏付けと実習を通して学習します。

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|---------------------------------|---|
| 第1回 | 講義実習形式 | 授業を通じての到達目標 描く領域から造る領域の技法の種類を知る。 造形に発展する素材と表現方法の手がかりの理解。 | ・技法説明プリントを配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 二年次の授業内容の説明 切り絵の制作 1 | | |
| 第2回 | 講義実習形式 | 授業を通じての到達目標 指導者の条件としての心構えを知る。 | ・幼児造形の指導法プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 幼児造形の指導の基本的な心構え 講義(プリント1. 2. 3) 切り絵の制作 2 | | |
| 第3回 | 講義実習形式 | 授業を通じての到達目標 幼児の絵画表現の特徴について知る。 | ・幼児の絵画表現の特徴プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ○幼児の絵画表現の特徴について 切り絵の制作 3 | | |
| 第4回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 幼児造形活動の導入から作品完成までの流れを知る。 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 指導の展開、(環境づくり)(導入→助言→評価) 講義(プリント4. 5) | | |
| 第5回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 幼児造形活動の導入から作品完成までの流れを知る。 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 指導の展開、(題材設定、導入)(導入→助言→評価) 講義(プリント6, 7. 8) 造る領域 立体造形バードカービング 1の制作 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------------|-------------|---|--------------------------------------|---|
| 第6回 | 講義 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 造る領域 立体的把握と用具の修得 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 造る領域 立体造形バードカービング 2の制作 | | |
| 第7回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児造形活動の導入から作品完成までの流れを知る。 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 指導の展開、(助言のあり方)(導入→助言→評価) 講義(プリント9、10) 造る領域 立体造形バードカービング 3の制作 | | |
| 第8回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 表現と保育の役割について知る。 | ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ○表現と環境、表現と保育の役割について 造る領域 立体造形 リベットを使った工作 1 | | |
| 第9回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 個別指導 一斉指導の違いを知る。 | ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ○指導形体(個別指導 一斉指導) 造形遊びの指導について 造る領域 立体造形 リベットを使った工作 2 | | |
| 第10回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 造る領域 立体的把握と用具の修得 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 造る領域 立体造形 リベットを使った工作 3 | | |
| 第11回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児の年齢における絵画表現の特徴を知る。 | ・幼児の絵画表現の特徴についてのプリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼児の絵画表現の特徴について(なぐり書きからレントゲン描法まで) 講義(プリント11、12、13、14) | | |
| 第12回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 造る領域 立体的把握と用具の修得 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 造る領域 立体造形 仮面制作 or(プラ板) おもちゃづくり 1 | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 造る領域 立体的把握と用具の修得 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 造る領域 立体造形 仮面制作 or(プラ板) おもちゃづくり 2 | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 造る領域 立体的把握と用具の修得 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 造る領域 立体造形 仮面制作 or(プラ板) おもちゃづくり 3 | | |
| 第15回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児の絵画表現の特徴、幼児の造形表現の指導者としての助言のあり方を復習し要点を理解する。 | ・プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す試験の準備をしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 試験対策 復習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|-----------|-------------|---|-----------------------------|--------------------|---------------|
| 科 目 名 | 音楽Ⅲ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 金曜6・7限 | 教室名 | ピアノ室 |
| 担 当 教 員 | 谷 理香・近 眞理 | 実務経験とその関連資格 | ヤマハ音楽教室において、幼児音楽教育全般の指導にあたり、講師の育成に長年携わっていた。大学において、幼児教育学科にて勤務、ピアノ・声楽を主に教えていた。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 音楽Ⅱから引き続き、ピアノ実技及び弾き歌いのレベルアップができる。保育現場で実際に使われている多くの楽曲をレパートリーとして増やしていくことができる。アレンジのレベルもアップし、臨機応変に対応していくことができるようになる。保育現場の様々な場面で子どもたちに音楽を提供できる力を養うことができる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目実技試験 70% 出席評価 30% 平常評価 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| バイエル教則本 ブルグミュラー25の練習曲 ソナチネアルバムなど こどもの歌ベストテン 続こどものうた200など | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習、復習として、課題曲を自己練習をし、ピアノに常に触れ、練習をしておくことが望ましいです。幼児教育の現場で必要不可欠な弾き歌いのスキルを上げていくことが大切です。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 音楽教育は幼児の心身の発達、発育には必要不可欠なものです。日々練習を重ね、スキルを上げていくと同時に自分自身も積極的に色々な音楽に親しみ、楽しむ心を大切にしましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 3/8拍子の弾きごたえのある曲。色々な要素がふくまれていて、右手の広範囲なメロディと最後の移動する和音が少し難しい。弾き歌いは2曲ともにイントロやテンポ、コードが少し複雑になっているが楽しんで弾けるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベストテン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル100番を練習する。「犬のおまわりさん」「ともだちになるために」を練習する。 | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 複付点と16分音符のリズムを理解することができるようになる。16分音符での広範囲のスケールをスムーズに弾くことができるようになる。イントロや伴奏が少し速い曲ではあるが、楽しい気分でご歌えるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベストテン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル100番を完成させることができる。バイエル102番を練習する。「犬のおまわりさん」「ともだちになるために」を完成させることができる。「アイアイ」「そうだったらいいのにな」を練習する。 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 3/8拍子へ長調のテンポの速い曲で、3オクターブに渡るスケールをスムーズに弾けるようになる。「アイスクリームのうた」は付点のリズムが多く少し弾きにくいですが歌詞を乗せると楽しく演奏できるようになる。 | バイエル教則本 みんなの歌ベストテン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル102番を完成させることができる。104番を練習する。「アイアイ」「そうだったらいいのにな」を完成させることができる。「アイスクリームのうた」「やまびこさん」を練習する。 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | バイエルを修了し、新しくブルグミュラー25の練習曲という教則本に入ることができる。「アイスクリームのうた」「やまびこさん」を完成させることができる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | バイエル104番を完成させることができる。バイエルを修了する。ブルグミュラー25に入り、1番「素直な心」を練習する。 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | バイエル1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは歌に重点を置き、歌詞がしっかりと歌えるようになる。伴奏に余裕ができてくる。 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|--------------------------------------|--------------------|
| 第6回 | 演奏を通じての到達目標 | バイエルと違い、ブルグミュラー25では色々な表現記号がでてきて、美しく弾くように常に心がけることができるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどものうた 200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1番「すなおな心」は4/4拍子ハ長調、スラーのかかった8分音符メロディをレガートで美しく弾くことができる。「バスごっこ」「宇宙船のうた」を練習する。 | | |
| 第7回 | 演奏を通じての到達目標 | アラビア風というタイトルの曲で16部音符の上下するフレーズを両手とも正確に速く弾くことができるようになる。乗り物の歌で2曲とも元気なかけ声が途中に入るが、伴奏が崩れることなく楽しく演奏できるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどものうた 200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 2番「アラバスク」を完成させることができる。3番「パストラル」を練習する。「バスごっこ」「宇宙船のうた」を完成させることができる。「きのこ」を練習する。 | | |
| 第8回 | 演奏を通じての到達目標 | 装飾音符を付けて、右手のメロディは遠くから歌うように美しく弾けるようになる。弾き歌いはイントロや間奏が少し難しいが、一気に楽しく弾けるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 3番「パストラル」の完成度を高めていく。「きのこ」を完成させることができる。「世界中の子どもたちが」を練習する。 | | |
| 第9回 | 演奏を通じての到達目標 | 両手ともに和音で進むフレーズの曲でわくわくを感じる曲。和音を正確に美しく弾くことができるようになる。イントロ無しの歌い出し、元気一杯の曲をスムーズに弾けるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 3番「パストラル」完成させることができる。4番「小さなつどい」を練習する。「世界中の子どもたち」を完成させることができる。 | | |
| 第10回 | 演奏を通じての到達目標 | ブルグミュラー1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ブルグミュラーは、強弱を付けて、歌うように表現しながら弾けるようになる。弾き歌いは音程を正しく歌詞の内容を明瞭に伝え、ピアノ伴奏で曲を盛り上げることができるようになる。 | | |
| 第11回 | 演奏を通じての到達目標 | 連続する16部音符のレガートに一息に弾けるようになる。左手の和音もバランスを保ち美しく弾けるようになる。弾き歌いは左手の動きが少し難しいが、しっかりと正確に弾きながら、歌えるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 4番「小さなつどい」を完成させることができる。5番「無邪気」を練習する。「アンパンマンのマーチ」を練習する。 | | |
| 第12回 | 演奏を通じての到達目標 | 6/8拍子アウフタクトのテンポの速い曲で少し長い曲になるが、集中力を保持し弾けるようになる。弾き歌いの曲は7thコードが多く出てくるが、理解をしながら伴奏することができるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 5番「無邪気」を完成させることができる。9番「狩」を練習する。「アンパンマンのマーチ」を完成させることができる。「さんぽ」を練習する。 | | |
| 第13回 | 演奏を通じての到達目標 | 期末試験に向けての各人少し難易度を上げて課題曲を決める。譜読み、理解、練習と計画的に練習に取り組むことができる。弾き歌いは好きな歌を選び、伴奏アレンジを決め、楽譜を書く。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 各自課題曲に向けて、今までのスキルとここからの新たなスキルを身につけ、丁寧に練習をしていくことができる。伴奏、イントロなどのアレンジを考え、楽譜を作成していくことができる。 | | |
| 第14回 | 演奏を通じての到達目標 | 今までとは違い、曲が長いですが、丁寧に練習をして、積み上げていくことができる。色々なコードも使い、歌いながら、弾きやすく、納得できる伴奏を考えていくことができる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどもの歌200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 同じ曲を何度も繰り返し練習し、考え、修正し、作り上げていくことができるようになる。伴奏と歌のバランスの調整を図りながら、練習をしていくことができる。 | | |
| 第15回 | 演奏を通じての到達目標 | いつもより長い時間をかけることにより、曲としての完成度を上げ、音楽を表現することができる。自分が楽しくなるような伴奏で弾き歌いができるようになる。 | ブルグミュラー25の練習曲 みんなの歌ベストテン 続こどものうた 200 | 次回授業までに課題曲を練習しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 反復練習の中にも、問題点や修正点を見つけ、本番で思った通りの演奏ができるように努力ができる。自分の納得したアレンジを本番で楽しく弾き歌いできるようになる。 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
|--|-------------|-------------|---|------|---------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育実習 I (施設) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 80 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 赤松 慶子 | 実務経験とその関連資格 | 大阪市の学校法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担当。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>保育実習指導での目的、意義、内容理解を明確にし、居住型(一部通所型)児童福祉施設において乳幼児や児童の理解を深めるとともに、現場の機能と施設保育士の職務について理解し、実践できるようになる。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>必須:1日実働8時間×10日間 各実習施設にて評価(A～D) ※実習内規に基づき、参加条件あり</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <p>実習事前指導及び実習指導 I の参考資料と教科書</p> | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>実習前に、実習に向けて各自必要な準備を計画的にする。社会人力を高めるための経験や学びの機会、現場経験の機会を作る。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>失敗は成長できるチャンスです。主体性を発揮して、積極的に実習に臨み、経験してきてください。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。実習日誌を記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実習施設についての理解 養護の1日の流れの理解 子どもの観察や関わり方への理解 | | | |
| 第2回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。実習日誌を記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実習施設についての理解 養護の2日の流れの理解 子どもの観察や関わり方への理解 | | | |
| 第3回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。実習日誌を記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実習施設についての理解 養護の3日の流れの理解 子どもの観察や関わり方への理解 | | | |
| 第4回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。実習日誌を記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 職員間の役割分担と、チームワークの理解 記録の書き方と考察力の習得 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 | | | |
| 第5回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。実習日誌を記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 職員間の役割分担と、チームワークの理解 記録の書き方と考察力の習得 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|------|-------------------------------|
| 第6回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。 実習日誌を記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 職員間の役割分担と、チームワークの理解 記録の書き方と考察力の習得 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 | | |
| 第7回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解が出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。 実習日誌を記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 職員間の役割分担と、チームワークの理解 記録の書き方と考察力の習得 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 | | |
| 第8回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について説明出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。 実習日誌を記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 子どもの最善の利益についての配慮の理解 保育士としての倫理や配慮についての理解 | | |
| 第9回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について説明出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。 実習日誌を記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 子どもの最善の利益についての配慮の理解 保育士としての倫理や配慮についての理解 | | |
| 第10回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 入所形態の児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について説明出来る。 | 特になし | 実習指導の配布資料と参考資料を読む。 実習日誌を記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 児童福祉に対する理解と子どものニーズについての把握 子どもの最善の利益についての配慮の理解 保育士としての倫理や配慮についての理解 | | |
| 第11回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第12回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第15回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|-------|-----------------|-----------|-----------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 造形Ⅲ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | 学期及び曜時限 | 後期 金曜6・7限 | 教室名 | 6階 造形室 |
| 担 当 教 員 | 下地忠司 | 実務経験と その関連資格 | 中高美術科教員資格 | | |

《授業科目における学習内容》

1:造形表現の概要 2:表現の設定、指導の視点 3:幼児の発達段階に於ける造形表現の特質基本的な能力の形成(描く表現の発達過程)(創る表現の発達過程)(幼児の絵画表現の特徴)
4:幼児の造形表現の指導者として(指導の基本的な心構え)(指導者の条件)(指導の展開)
5:実技研究

《成績評価の方法と基準》

1:課題内容の把握 2:適切な素材を用いているか 3:材料の加工・表現技能 4:内容の豊かさ・工夫の度合い 5:テストの評価 6:授業態度 等による評価 絶対評価

《使用教材(教科書)及び参考図書》

1:レジメ・各講義内容に応じたプリントを配布 2:描画材(ポスターカラー・色鉛筆・トーンカラー・クレパス・描画用紙・粘土・木材等)

《授業外における学習方法》

造形の授業は保育指針の中での領域「表現」にあたります。「ねらい」として 1・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 2・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 3・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。とあります。日本の自然環境や風土には幼児が豊かに表現活動を行うことができる環境が用意されています。それを汲み取る動きを日頃から公共の文化施設(美術館等)やイベント、メディア等を利用していく感性を養っていただきたいと思います。

《履修に当たっての留意点》

幼児造形教育を学習するにあたって、子供達の身体の発達過程とその年齢に於ける描画的特徴を学習し、現場でどのように子供達に造形活動を促しサポートしたらいいのかを講義において理論的な裏付けと実習を通して学習します。

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------------------|-------------|--|---|---|
| 第1回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | シンプルな色と形(幾何形態)の組み合わせによって無数に変化するカードの絵柄を使って抽象的な美しさを体現する。 | ・技法説明プリントを配布 ・使用描画教材の配布 厚紙 デザインカッター | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | カラーカード(色と形の組み合わせ)1(図案の作成) | | |
| 第2回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | シンプルな色と形(幾何形態)の組み合わせによって無数に変化するカードの絵柄を使って抽象的な美しさを体現する。 | ・使用描画教材の配布 厚紙 デザインカッター | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | カラーカード(色と形の組み合わせ)2(図案のカット) | | |
| 第3回 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | シンプルな色と形(幾何形態)の組み合わせによって無数に変化するカードの絵柄を使って抽象的な美しさを体現する。 | ・使用描画教材の配布 厚紙 デザインカッター | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | カラーカード(色と形の組み合わせ)3(図案の彩色) | | |
| 第4回 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児造形教育の現場における造形指導の違いが説明できる。 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 講義 指導形態(個別指導 一斉指導) 造形遊びの指導について | | |
| 第5回 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実践の現場で行なえる楽しいおもちゃについて考えることができる。 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | おもちゃ作り(プラ板制作)1 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------------|-------------|--|------------------------------------|---|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実践の現場で行なえる楽しいおもちゃを完成させる。 | ・使用描画教材の配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | おもちゃ作り（プラ板制作） 2 | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実際に使える時計をウッドシートを使用したカッティング技術を使って完成させる①実技演習 | ・指導の展開プリント配布 ・使用描画教材の配布 ウッドシート等 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 切り抜きカッティングアート時計 1 ●（海外研修の前週）（学祭前週） | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実際に使える時計をウッドシートを使用したカッティング技術を使って完成させる②実技演習 | ・使用描画教材の配布 ウッドシート等 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 切り抜きカッティングアート時計 2 | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実際に使える時計をウッドシートを使用したカッティング技術を使って完成させる③実技演習 | ・使用描画教材の配布 ウッドシート等 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 切り抜きカッティングアート時計 3 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 幼児における造形指導の大切さが理解できる。理念、留意点のおさらい。 | ・講義用プリントを配布 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 講義 造形表現の原理と指導の視点 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 卒業制作としての思い出に残る版画を着想、発想、立案することができる。 | ・使用描画教材の配布 ゴム版彫刻刀 等 | ・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 版画制作 1 着想、発想、立案 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 卒業制作としての思い出に残る版画の制作。実技演習 | ・使用描画教材の配布 ゴム版彫刻刀 等 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 版画制作 2 制作 彫り | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 卒業制作としての思い出に残る版画の制作。実技演習 | ・使用描画教材の配布 ゴム版彫刻刀 等 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 版画制作 3 制作 彫り | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 卒業制作としての思い出に残る版画の制作。実技演習 | ・使用描画教材の配布 ゴム版彫刻刀 等 | ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 版画制作 4 制作 彫り | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 卒業制作としての思い出に残る版画の完成。実技演習 | ・使用描画教材の配布 ゴム版彫刻刀 等 | 制作物 画材等の整理。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 版画 刷り 作品返却 合評 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|----------|-------------|---|-----------------|--------------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育実習指導 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 木曜7限 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 清水 靖子 | 実務経験とその関連資格 | 吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 施設実習の目的や保育士の役割、関わりを理解する。また、講義だけではなく、現場における事例をもとに、ディスカッションなどの演習を取り入れ、実習への不安を少しでも取り除き実習で主体的に取り組むことができるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| ・授業内評価と提出物、実習報告会時の発表内容 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| ・教科書『幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド』ナツメ社 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| ・実習前では、施設の目的、施設の養育の内容、施設の設備、施設の職員に関して理解に努める。 ・家事一般ができるよう、生活技術を身につけておく。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| ・施設実習は、施設から課題が与えられる場合があるので、普段から課題等はすぐに取り組むようにしましょう。すべては主体的に取り組むことからですので、授業から慣れていきましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 次の施設実習に活かせることができるように、保育園での実習を振り返ることができる。 | ・配布プリント | ・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・オリエンテーション ・保育実習 I (保育園) 振り返り | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実習までに何が必要なのか整理し、計画を立てることができる。 | ・配布プリント | ・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実習関係書類の準備、確認 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実習での視点をどこに置けば良いのか理解し、視点に沿った計画を立てることができる。 | ・配布プリント | ・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・施設実習を迎えるまでに ・実習で学ぶ目標 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設の現状を理解し、説明することができる。施設の目的と意義を理解し、説明できる。 | ・配布プリント ・DVD | ・施設の1日の流れを把握しておく。また、保育士以外の職員の関わりを知る。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・施設での実習の進め方 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設の現状を理解し、説明することができる。施設の目的と意義を理解し、説明できる。 | ・配布プリント ・DVD | ・施設の2日の流れを把握しておく。また、保育士以外の職員の関わりを知る。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・施設での実習の進め方 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------------|---|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日誌の項目の理解ができ、それにそった記入ができるようになる。 | ・配布プリント | ・書き方が理解できない場合や、不安なところがある場合は、次回の授業までに質問し、解決に繋げる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・施設での実習の進め方 ・日誌の練習 | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 意気込みを記入すると同時に、実習に向けての準備の確認を行い、課題等を終わらせることができる。 | ・配布プリント | ・今回の授業でできなかった指定課題は計画を立て、実習に行くまでに完成させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・お礼状の書き方 ・意気込み | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実習中の自分の行動等を振り返ることができる。 | ・配布プリント | ・今回の実習で、足らなかったもの等を考え、次に活かせるよう普段から意識して行うようにする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワーク(振り返り) ・自己評価 | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 他の学生の事後ワークを見て、どんなことをしていたか知ること で、次の実習に活かすことができる。 | ・配布プリント | ・次回は実習報告会の準備を行うので、各自必要なものを準備しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワークを使用してグループワーク | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1年生に発表をするうえで相手の立場になり、報告できる。 | ・パソコン ・各自用意した資料 | ・PPのスライド面を完成できていない学生は、次回の授業までに完成させる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・実習報告会(保育実習Ⅰ保育所)の準備 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 完成させたPPの発表に合わせ、練習を行うことで、本番では傍聴者が理解できる内容に完成させることができる。 | ・パソコン ・各自用意した資料 | ・PPが完成していない場合は、次回の授業3日前までに完成をさせ、提出をする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・実習報告会(保育実習Ⅰ保育所)の準備 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 発表後質問に答えることで、伝える難しさを知ると同時に、相手が理解できるまで諦めずに説明できるようになる。 | ・パソコン ・各自用意した資料 | ・児童館について各自で予習しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・実習報告会 | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 児童館の役割を理解したうえで、種別の違いを把握し説明することができる。 | ・配布プリント | ・発達段階の復習を行っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・児童館について① | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 児童館の役割を理解したうえで、種別の違いを把握し説明することができる。 | ・配布プリント | ・保育実習Ⅱ又はⅢに向けての準備状況の確認を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・児童館について① | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子どもの理解を深めるため、発達段階に応じた留意点を考えることができるようになる。 | ・配布プリント | ・余裕をもった準備を行い、実習に挑む。不安や疑問がある場合は、解決に繋げる。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・児童館について② | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
|--|-------|-----------------|---|------|-----------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育実習Ⅱ | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 80 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 山田 遥 | 実務経験と その関連資格 | 吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(保育所)で学んだ事を活かし、自らが保育者として、子ども達の生活の中での日案を考え、実践できるようになる。また自らの保育者像を明確にし、実践できるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 必須:1日実働8時間×10日間 各実習施設にて評価(A～D) ※実習内規に基づき、参加条件あり | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 実習前に、実習に向けて各自必要な準備を計画的にする。社会人力を高めるための経験や学びの機会、現場経験の機会を作る。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 失敗は成長できるチャンスです。主体性を発揮して、積極的に実習に臨み、保育者としてさらなる実践力を身につけてきてください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所における保育実践と保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育全般への参加と保育技術の習得 子どもの個人差について理解とその対応方法の習得 保育場面における保育指導計画の作成とその実践 | | | |
| 第2回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所における保育実践と保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育全般への参加と保育技術の習得 子どもの個人差について理解とその対応方法の習得 保育場面における保育指導計画の作成とその実践 | | | |
| 第3回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所における保育実践と保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育全般への参加と保育技術の習得 子どもの個人差について理解とその対応方法の習得 保育場面における保育指導計画の作成とその実践 | | | |
| 第4回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域における保育所の機能を理解し、子育て支援が実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子どもの家庭背景に対する理解と保護者とのコミュニケーション方法の習得 保育所が果たす地域への役割と連携方法の習得 | | | |
| 第5回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域における保育所の機能を理解し、子育て支援が実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子どもの家庭背景に対する理解と保護者とのコミュニケーション方法の習得 保育所が果たす地域への役割と連携方法の習得 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|------|-----------------------------------|
| 第6回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域における保育所の機能を理解し、子育て支援が実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子どもの家庭背景に対する理解と保護者とのコミュニケーション方法の習得 保育所が果たす地域への役割と連携方法の習得 | | |
| 第7回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域における保育所の機能を理解し、子育て支援が実践できるようになる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子どもの家庭背景に対する理解と保護者とのコミュニケーション方法の習得 保育所が果たす地域への役割と連携方法の習得 | | |
| 第8回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域における保育所の機能を理解し、子育て支援が実践できる。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 子どもの家庭背景に対する理解と保護者とのコミュニケーション方法の習得 保育所が果たす地域への役割と連携方法の習得 | | |
| 第9回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子育て支援を実践するための保護者への関わり方や保育実践が出来る。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育士としての職業倫理の理解 保育士として必要な資質・能力・技術・知識の再確認と自己課題の明確化 | | |
| 第10回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 子育て支援を実践するための保護者への関わり方や保育実践が出来る。 | 特になし | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅱの参考資料と教科書を読む。 日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育士としての職業倫理の理解 保育士として必要な資質・能力・技術・知識の再確認と自己課題の明確化 | | |
| 第11回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第12回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第15回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |

2022 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|-------------|---|---|----------------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 保育実践演習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時間 | 前期 土曜日4・5限 | 教室名 | 合同校舎302/PCルーム |
| 担 当 教 員 | 長谷川 祥 | 実務経験と その関連資格 | 保育教諭3年、特別支援学校講師2年 保育士・特別支援学校教諭1種免許状・修士課程 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 各自のテーマを設定・研究する過程をグループで実践する。保育に関する基本的な課題について、多角的に考察し、総合的、実践的に問題解決していく能力を養い、計画的なグループ活動が実践できる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| グループへの貢献度 50% 提出した課題の内容 50% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 保育に関する研究論文 関連資料 など | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じて、他者との協同について学ぶ。 ・保育を取り巻く現状に目を向け、これからの保育士に求められる倫理観や技術・知識を自ら見つける。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 卒業研究の目的を理解し、流れについて他者に説明できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション 卒業研究の目的、流れなど説明 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 論文検索サイトを使用し、関心のある先行研究を検索できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 個人で、自分の持っている「保育領域の疑問」を考える | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 論文検索サイトを使用し、関心のある先行研究を検索できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 関心の強い保育領域の論文を検索する(3つ)。 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 研究論文の大まかな構成について、把握できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 関心のある論文を検索し、プリントアウトする(3つ)。また、論文内容を指定の用紙にまとめる。 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 研究論文の大まかな構成について、把握できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 関心のある論文を検索し、プリントアウトする(3つ)。また、論文内容を指定の用紙にまとめる。 | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|----------------------------------|--|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究論文の大まかな構成について、把握できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 関心のある論文を検索し、プリントアウトする(3つ)。また、論文内容を指定の用紙にまとめる。 | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自分の興味のある、研究課題を他者に説明できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 関心のある論文を検索し、プリントアウトする(3つ)。また、論文内容を指定の用紙にまとめる。 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで、メンバーが関心の持つ課題を共通認識する。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループ内で先行研究の概要を発表する。 | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループメンバーで、グループで取り組みべき課題を共通認識できる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループで先行研究を検索する。 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで取り組むべき課題を明確にすることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループでリサーチクエスチョンをつくってみる | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで取り組むべき課題を他者に伝えることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループで、参考にすべき先行研究を検索し、グループでの目標を明確にする。 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究動機や背景を他者に伝えることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 研究目的の決定する。 | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究目的を他者に伝えることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 研究目的の決定 研究方法の検討 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究方法を他者に伝えることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 研究方法の検討 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究計画を書面にまとめ、他者に伝えることができる。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 研究計画書の作成 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|--|--|----------------------------------|--|
| 第16回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 研究計画を書面にまとめ、他者に伝えることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 研究計画書の作成 | | | |
| 第17回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 研究計画を書面に改善箇所がないか確認し、自分たちで修正箇所を見つけることができる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 研究計画書の完成、提出 | | | |
| 第18回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 課題を明確にするために必要なデータ収集に向けた準備ができている。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 調査実施の準備 | | | |
| 第19回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 課題を明確にするために必要なデータ収集に向けた準備ができている。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 調査実施の準備 | | | |
| 第20回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | クラス内報告会に向けた、パワーポイントでのスライドのレイアウトができている。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など と 報告会PP作成 | | | |
| 第21回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | クラス内報告会に向けた、パワーポイントでのスライドをグループ内で役割を分担し、作成している。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など と 報告会PP作成 | | | |
| 第22回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | クラス内報告会に向けた、パワーポイントでのスライドをグループ内で役割を分担し、作成している。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など と 報告会PP作成 | | | |
| 第23回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | クラス内報告会に向けた、パワーポイントでのスライドが完成している。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 報告会PP提出 | | | |
| 第24回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | クラス内報告会において、自グループの研究手法と他グループの研究手法の違いが把握できる。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 中間発表会の実施 | | | |
| 第25回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | | |

| | | | | | |
|------|--------|-------------|-------------------------|----------------------------------|--|
| 第26回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | |
| 第27回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | |
| 第28回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | |
| 第29回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | |
| 第30回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自グループの研究活動を進めることができている。 | 各種必要なテキスト、論文検索のためのインターネット機器(PC室) | 授業内講話や時事ニュースなどで、保育に関する出来事に関心・興味を持っておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実施準備・実施など | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|---------|-----------------|---|------------------------------------|-----------------------|--|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 保育実習指導Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 月曜6限 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担 当 教 員 | 山田 遥 | 実務経験と その関連資格 | 吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(保育所)での評価反省を振り返り、学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より更に主体的に取り組むための計画を立て、実習に備える。そして、就職へとつなげることができる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| ・授業内評価と提出物、報告会 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| ・教科書『幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド』 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(保育所)の日記に再度目を通し、「できなかった」「もっとできていたのに」等、を思い出し、どのように取り組まなければならないか再度確認を行い、更に良い実習であるようにするために準備を行っていく。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(保育所)で行った実習よりも、部分実習の時間が長くなったり、責任実習になったりすることもあるので、学びに繋げることができるようにサポートしていきますので、なんでも質問をしてきて解決に繋げましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで過去の関わりで困った事例を考えることで、色々な対応があることに気づき、視野を広げ保育士としての対応方法を述べるができる。 | ・配布プリント | | ・自分自身の関わりで困ったことがあれば、教員や他学生にどう対応するかなど聞き、視野を広げて考えるようにする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・子どものかかわりの復習とワーク | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育園ⅠとⅡ、の違いを理解し、説明できる。 | ・配布プリント | | ・実習までに余裕をもって準備を終えるようにする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・保育実習Ⅱの事前課題 ・意気込み | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 振り返ることで、何が足りないか知ると同時に、習得するための課題を述べるができる。 | ・配布プリント | | ・次回グループで事後ワークを使用するので、完成させておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワーク(振り返り) ・自己評価 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実習の中で学んだことを発表をグループ内で行い、個々が他の園の保育内容等を知ることができ、特徴を説明することができる。 | ・配布プリント | | ・今までの日記を一通り、目を通しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワークを使用してグループワーク | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日記を基に今までの実習を振り返ることで、より丁寧な日記になるよう具体的に述べるができる。 | ・過去の日誌 ・レポート指示書 ・レポート用紙(下書き) | | ・次回の授業終了後に下書きを提出するので、それまでに計画を立てて取り組む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・レポート下書き(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)、Ⅲ(施)を振り返り) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------------------|--|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 指定された文字数の中で、何が伝えたいか理解できるような内容を書くことができる。 | ・レポート用紙 (下書き) | ・提出する前に、指示書を読み直し、指示通りにできているか、各自確認をする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・レポート下書き提出(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)orⅢ(施)) | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 読まれるという意識から丁寧に書き、読みやすいように配慮しようとする事ができる。 | ・レポート用紙 (清書) | ・今回の授業で清書が完成しなかった学生は、指定された日程までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・レポート一斉清書 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1年生の困った内容等に、適切な対応を伝えることができる。また、良い雰囲気の中で話し合いができるよう環境づくりができる。 | ・配布プリント | ・授業時だけでなく、休み時間等も声をかけられやすい雰囲気づくりをする。また、声を掛ける等関わりをもつ。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・実習報告会(聴講者) | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 丁寧に作成し就職後も使用できるように、丁寧に作る事ができる。 | ・課題指示書 ・A4用紙 ・マジック | ・未完成の学生は、指定された日程までに提出する。そしてこれからの授業は、その都度提出になるので、計画を立てて取り組むようにする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(手遊び・ふれあい遊び) | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 壁面の大きさに合わせて、作る事ができる。 | ・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌 | ・型紙を使用するのではなく、普段から絵を見て描くことができるように、取り組む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(壁面) | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 協力して取り組んだ壁面の完成により、注意点述べる事ができる。 | ・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌 | ・次回の授業までに、保育園や幼稚園の行事を考え、発表できるように準備しておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(壁面)完成 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 内容のある園便り・行事のお知らせを作り、他学生が理解できるものを作ることができる。 | ・見本(園だより) | ・自分で「大切」だと思った内容に対して、積極的にメモを取るようしておく。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(園だより・行事のお知らせ) | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 今までの指導案を振り返り、記入漏れや子どもの予想される姿や配慮等足りない部分に気付くことができる。 | ・今までの日誌 ・指導案 | ・次回の授業終了後に提出するので、計画を立て、取り組むようにする。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・設定保育集作成 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 足りない部分に気付きより良い指導案を完成させることができる。 | ・今までの日誌 ・指導案 | ・指導案未完成の学生は指定された日程までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・設定保育集作成完成 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育士としてどうあるべきか、明確な保育士像を述べる事ができる。 | ・配布プリント | ・各自が思う理想の保育士像に近づけるように、必要だと思うことに対して、真剣に取り組む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・実習を終えて | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|----------|-------------|---|---------------------|-------------------|--------------------|
| 科 目 名 | 幼児教育特講 I | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年生 | | 学期及び曜時間 | 前期 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 赤松 慶子 | 実務経験とその関連資格 | 大阪市の社会福祉法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担当。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許 | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>幼児教育には様々な方法論がある。その知識や技術の予習、復習の機会を通して、保育実践に向けての具体的な方法を習得する。通信教育システムで幼稚園教諭2種免許取得を目指す。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1. 定期試験 70% 2. 出席点 20% 3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>予習として、免許取得科目履修のために必要なテキストや参考資料を事前にしっかり読み込む。内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る。</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>幼稚園教諭2種免許を取得し、幼児教育方法を習得するために、レポート作成や試験がありますので、事前準備と計画が大切になります。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法①について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修① | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修② | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法③について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修③ | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法④について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修④ | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑤について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑤ | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---------------------------|---------------------|--------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑥について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑥ | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑦について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑦ | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑧について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑧ | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑨について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑨ | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑩について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑩ | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑪について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑪ | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑫について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑫ | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑬について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑬ | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑭について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑭ | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑮について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑮ | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---------------------------|---------------------|--------------------|
| 第16回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑯について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑯ | | |
| 第17回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑰について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑰ | | |
| 第18回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑱について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑱ | | |
| 第19回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑲について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑲ | | |
| 第20回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑳について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉑ | | |
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉒について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉒ | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉓について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉓ | | |
| 第23回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉔について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉔ | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉕について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉕ | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉖について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉖ | | |

| | | | | | |
|------|------|-------------|---------------------------|---------------------|--------------------|
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑳について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉑ | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉒について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉓ | | |
| 第28回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉔について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉕ | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉖について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉗ | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉘について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉙ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|----------|-------------|---|------|--------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育技術特講 I | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 赤松 慶子 | 実務経験とその関連資格 | 大阪市の社会福祉法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担当。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 現代社会における家族や親子の置かれた保育技術には様々な方法論がある。その知識や技術の予習、復習の機会を通して、具体的な方法を習得し、現場で実践できるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 定期試験 70% 2. 出席点 20% 3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 保育表現使用テキストや事前配布参考資料 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習として、必要なテキストや参考資料を事前にしっかり読み込む。内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法①について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法① | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法②について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法② | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法③について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法③ | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法④について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法④ | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑤について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑤ | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|-----------------------|------|--------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑥について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑥ | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑦について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑦ | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑧について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑧ | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑨について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑨ | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑩について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑩ | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑪について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑪ | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑫について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑫ | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑬について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑬ | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑭について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑭ | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑮について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑮ | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|------------------------|------|--------------------|
| 第16回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法①⑩について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑩ | | |
| 第17回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑪について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑪ | | |
| 第18回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑫について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑫ | | |
| 第19回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑬について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑬ | | |
| 第20回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑭について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑭ | | |
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑮について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑮ | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑯について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑯ | | |
| 第23回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑰について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑰ | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑱について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑱ | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑲について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑲ | | |

| | | | | | |
|------|------|-------------|-----------------------|------|--------------------|
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑳について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉑ | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法㉒について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉓ | | |
| 第28回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法㉔について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉕ | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法㉖について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉗ | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法㉘について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉙ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
|---|-------|-------------|--|-------|-------------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育実習Ⅲ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 80 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 山田 遥 | 実務経験とその関連資格 | 吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(施設)で学んだ事を活かし、自らが保育者として、入所者(通所者)の生活の中での日案を考え、実践できるようになる。また自らの保育者像を明確にし、実践できるようになる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 必須:1日実働8時間×10日間 各実習施設にて評価(A～D) ※実習内規に基づき、参加条件あり | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 実習前に、実習に向けて各自必要な準備を計画的にする。社会人力を高めるための経験や学びの機会、現場経験の機会を作る。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 失敗は成長できるチャンスです。主体性を発揮して、積極的に実習に臨み、保育者としてさらなる実践力を身につけてきてください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設等の養護の実際を理解した上で、保育士として必要な資質・能力・技術の実践が出来る。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 養護全般に参加し、保育技術の習得 子どもの個人差についての理解と対応方法の習得 自立援助計画や保育指導計画に対する理解と実践 | | | |
| 第2回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設等の養護の実際を理解した上で、保育士として必要な資質・能力・技術の実践が出来る。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 養護全般に参加し、保育技術の習得 子どもの個人差についての理解と対応方法の習得 自立援助計画や保育指導計画に対する理解と実践 | | | |
| 第3回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設等の養護の実際を理解した上で、保育士として必要な資質・能力・技術の実践が出来る。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 養護全般に参加し、保育技術の習得 子どもの個人差についての理解と対応方法の習得 自立援助計画や保育指導計画に対する理解と実践 | | | |
| 第4回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設等の養護の実際を理解した上で、保育士として必要な資質・能力・技術の実践が出来る。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育士としての職業倫理の理解 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術の習得と自己課題の明確化 | | | |
| 第5回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設等の養護の実際を理解した上で、保育士として必要な資質・能力・技術の実践が出来る。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育士としての職業倫理の理解 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術の習得と自己課題の明確化 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|-------|-------------------------------------|
| 第6回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域の生活実態にふれて、家庭福祉に対する理解力と判断力を養い、家庭との連携と子育て支援に必要な能力・技術が実践できる。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者に対するコミュニケーション方法の理解と技術の習得 施設と地域の連携方法に対する理解 子ども(利用者)のニーズや背景を把握する力の習得 | | |
| 第7回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域の生活実態にふれて、家庭福祉に対する理解力と判断力を養い、家庭との連携と子育て支援に必要な能力・技術が実践できる。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者に対するコミュニケーション方法の理解と技術の習得 施設と地域の連携方法に対する理解 子ども(利用者)のニーズや背景を把握する力の習得 | | |
| 第8回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域の生活実態にふれて、家庭福祉に対する理解力と判断力を養い、家庭との連携と子育て支援に必要な能力・技術が実践できる。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者に対するコミュニケーション方法の理解と技術の習得 施設と地域の連携方法に対する理解 子ども(利用者)のニーズや背景を把握する力の習得 | | |
| 第9回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域の生活実態にふれて、家庭福祉に対する理解力と判断力を養い、家庭との連携と子育て支援に必要な能力・技術が実践できる。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者に対するコミュニケーション方法の理解と技術の習得 施設と地域の連携方法に対する理解 子ども(利用者)のニーズや背景を把握する力の習得 | | |
| 第10回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 家庭と地域の生活実態にふれて、家庭福祉に対する理解力と判断力を養い、家庭との連携と子育て支援に必要な能力・技術が実践できる。 | 特になし。 | 実習指導Ⅰ及び実習指導Ⅲの参考資料と教科書を読む。 実習日誌記入 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保護者に対するコミュニケーション方法の理解と技術の習得 施設と地域の連携方法に対する理解 子ども(利用者)のニーズや背景を把握する力の習得 | | |
| 第11回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第12回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第15回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|------------|---------------------|-----------------------------|--------------------|-------------------------|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科目区分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科目名 | 健康管理特講 I | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担当教員 | 織田 修輔 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 栄養とその働きを理解し、健康管理や運動指導に結びつけることができる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 『健康管理士一般指導員テキスト』特定非営利活動法人 日本成人病予防協会 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業終了時に示す課題に取り組むこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 本講義では、健康管理士試験合格を目指します。健康管理士は、予防医学と健康管理のスペシャリストです。正しい健康管理の知識を身に着け、自分自身はもとより保育園に登園する子どもたちの健康管理にも努めてください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 栄養と健康、栄養素について説明することができる | 健康管理士一般 指導員テキスト | 授業終了時に示す課題 を実施しておくこと | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 生活を守る栄養学 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 栄養と健康、栄養素について説明することができる | 健康管理士一般 指導員テキスト | 授業終了時に示す課題 を実施しておくこと | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 栄養と健康 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 栄養と健康、栄養素について説明することができる | 健康管理士一般 指導員テキスト | 授業終了時に示す課題 を実施しておくこと | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 栄養とその働き | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 食事摂取基準、代謝のしくみについて説明することができる | 健康管理士一般 指導員テキスト | 授業終了時に示す課題 を実施しておくこと | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 代謝の仕組みについて① | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 血糖値上昇の仕組みについて説明することができる | 健康管理士一般 指導員テキスト | 授業終了時に示す課題 を実施しておくこと | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 血糖値の上昇について | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|-----------------------------|----------------|---------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事摂取基準、代謝のしくみについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 代謝の仕組みについて② | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 年代別の栄養について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 年齢別の栄養 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 年代別の栄養について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 年齢別の栄養 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 病気と栄養の関わりについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 病気と栄養 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 病気と栄養の関わりについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 病気と栄養 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食育の重要性について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食育について | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食育の重要性について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食育について | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康食品の利用について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康食品について | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食の安全について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食の安全について | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食の安全について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食の安全について | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|---------|-----------------|--|------------------------------------|--|---------------|
| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
| 科 目 名 | 保育実習指導Ⅲ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 月曜6限 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担 当 教 員 | 山田 遥 | 実務経験と その関連資格 | 吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(施設)での評価反省を振り返り、学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より更に主体的に取り組むための計画を立て、実習に備える。そして 就職へとつなげることができる。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| ・授業内評価と提出物、報告会 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| ・教科書『幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド』 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(施設)の日記に再度目を通し、「できなかった」「もっとできていたのに」等、を思い出し、どのように取り組まなければならないか、再度確認を行い更に良い実習であるようにするために準備を行っていく。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 保育実習Ⅰ(施設)よりも、しっかりと向き合い、子ども理解に繋げましょう。また、施設には他職種の方も子どもとかかわっています。どのような関わりがあるのか、質問を学びや気づきが多い実習にしていきたいと思います。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | グループで過去の関わりで困った事例を考えることで、色々な対応があることに気づき、視野が広がる。 | ・配布プリント | ・自分自身の関わりで困ったことがあれば、教員や他学生にどう対応するかなど聞き、視野を広げて考えるようにする。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・子どものかかわりの復習とワーク | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設ⅠとⅢの違いを理解できる。 | ・配布プリント | ・実習までに余裕をもって準備を終えるようにする。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・保育実習Ⅲの事前課題 ・意気込み | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 振り返ることで、何が足りないか知ると同時に、習得するための課題を見つけることができる。 | ・配布プリント | ・次回グループで事後ワークをしようするので、完成させておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワーク(振り返り) ・自己評価 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実習の中で学んだことに対して発表をグループ内で行い、個々が他の施設の保育士の関わりを知ることができ、保育の視野を広げることができる。 | ・配布プリント | ・今までの日記を一通り、目を通しておく。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事後ワークを使用し、グループワーク | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 日記を基に今までの実習を振り返り、課題を述べることができる。 | ・過去の日誌 ・レポート指示書 ・レポート用紙(下書き) | ・次回の授業終了後に下書きを提出するので、それまでに計画を立てて取り組む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・レポート下書き(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)orⅢ(施)を振り返り) | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|--------------------------|--|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 指定された文字数の中で、何が伝えたいか理解できるような内容を書くことができる。 | ・レポート用紙 (下書き) | ・提出する前に、指示書を読み直し、指示通りにできているか、各自確認をする。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・レポート下書き提出(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)orⅢ(施)) | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 読まれるという意識から丁寧に書き、読みやすいように配慮しようすることができる。 | ・レポート用紙 (清書) | ・今回の授業で清書が完成しなかった学生は、指定された日程までに提出する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・レポート一斉清書 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 1年生の困った内容等に、適切な対応を伝えることができる。また、良い雰囲気の中で話し合いができるように環境づくりができる。 | ・配布プリント | ・授業時だけでなく、休み時間等も声を掛けられやすい、雰囲気作りをする。また、声を掛ける等関わりをもつ。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・実習報告会(聴講者) | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 就職後も使用できる課題を作成することができる。 | ・課題指示書 ・A4用紙 ・マジック | ・未完成の学生は、指定された日程までに提出する。そしてこれからの授業は、その都度提出になるので、計画を立てて取り組むようにする。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(手遊び・ふれあい遊び) | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 壁の大きさに合わせた適切な壁面を作成する。 | ・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌 | ・型紙を使用するのではなく、普段から絵を見て描くことができるように、取り組む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(壁面) | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 協力して取り組んだ壁面の完成させる。 | ・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌 | ・次回の授業までに、保育園や幼稚園の行事を考え、発表できるように準備しておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(壁面)完成 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 園だよりの作成 | ・見本(園だより) | ・自分で「大切」だと思った内容に対して、積極的にメモを取るようしておく。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・課題作成(園だより・行事のお知らせ) | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 今までの指導案を振り返り、記入漏れや子どもの予想される姿や配慮等足りない部分に気付くことができる。 | ・今までの日誌 ・指導案 | ・次回の授業終了後に提出するので、計画を立て、取り組むようにする。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・設定保育集作成 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 足りない部分に気付き、より良い指導案を完成させることができる。 | ・今までの日誌 ・指導案 | ・指導案未完成の学生は指定された日程までに提出する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・設定保育集作成 提出 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 保育士としてどうあるべきか、明確な保育士像ができる。 | ・配布プリント | ・各自が思う理想の保育士像に近づけるように、必要だと思うことに対して、真剣に取り組む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | ・実習を終えて | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|------------|-----------------|--|----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生活習慣病 | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担 当 教 員 | 織田 修輔 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 健康管理士一般指導員資格認定試験の合格に必要な知識について、「健康管理学」および「心の健康管理」に関する内容のほか、健康支援の現場において必要と考えられる能力を修得することができる | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 『健康管理士一般指導員テキスト』特定非営利活動法人 日本成人病予防協会 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業終了時に示す課題に取り組むこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| この授業は健康管理士一般指導員資格試験の対策授業として行うものですが、その内容はこれから健康支援に携わる上で必要とされる知識および技術について学ぶものです。自らが積極的に学ぶ姿勢をもって授業に望んでください | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康の考え方と定義について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康の概念 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 保健統計(衛生統計)と疫学の概要および関連用語(平均寿命や健康寿命など)について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保健統計 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康阻害要因の理解と健康づくりに関する取り組みについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康づくり運動 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康日本21や健康増進法などわが国の健康増進対策について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康増進対策 | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 部位別検査項目と基準値など体の症状チェックについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康な時の心掛け | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|---------------------------------------|----------------|---------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療保険制度の概要と仕組みの理解および病院選びについて説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療制度の理解 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康管理学についてまとめと要点を述べる事が出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ(1) | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | メンタルヘルスとストレスの概要について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | メンタルヘルスとは | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ストレスチェックとその解消法について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | ストレスについて | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 気分障害や心身症、適応障害などの心の病気について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心の病気(1) | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 年代における心の病気の特徴と対策について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心の病気(2) | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 心の病気および心身医学の必要性について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心身医学(1) | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 心の病気および心身医学の必要性について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心身医学(2) | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 心の病気および心身医学の必要性について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心身医学(3) | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 受験する資格試験を想定した口頭試問に全て答えることが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康管理士試験対策演習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|---------|-------------|---|---------------------|--------------------|---------------|
| 科 目 名 | 幼児教育特講Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 赤松 慶子 | 実務経験とその関連資格 | 大阪市の社会福祉法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担う。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 幼児教育特講Ⅰで具体的に学んだ保育実践の方法と展開が実践できるようにする。通信教育システムで幼稚園教諭2種免許取得を目指す。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 定期試験 70% 2. 出席点 20% 3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習として、免許取得科目履修のために必要なテキストや参考資料を事前にしっかり読み込む。内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 幼稚園教諭2種免許を取得し、幼児教育方法を習得するために、レポート作成や試験がありますので、事前準備と計画が大切になります。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法①の実践の仕方について説明できる。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修① | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修② | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法③の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修③ | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法④の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修④ | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑤の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑤ | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|----------------------------------|---------------------|--------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑥の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑥ | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑦の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑦ | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑧の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑧ | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑨の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑨ | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑩の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑩ | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑪の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑪ | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑫の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑫ | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑬の実践の市垢田について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑬ | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑭の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑭ | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑮の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑮ | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---------------------------------|---------------------|--------------------|
| 第16回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑯実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑯ | | |
| 第17回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑰の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑰ | | |
| 第18回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑱の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑱ | | |
| 第19回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑲の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修⑲ | | |
| 第20回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法⑳の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉑ | | |
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉒の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉒ | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉓の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉓ | | |
| 第23回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉔の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉔ | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉕の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉕ | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法㉖の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修㉖ | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|----------------------------------|---------------------|--------------------|
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②⑥の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修②⑥ | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②⑦の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修②⑦ | | |
| 第28回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②⑧の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修②⑧ | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法②⑨の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修②⑨ | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 通信履修で学んだ幼児教育方法③⑩の実践の仕方について説明出来る。 | 幼稚園教諭免許取得科目履修各種テキスト | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 幼稚園教諭免許取得科目通信履修③⑩ | | |

講義・実習報告欄

◎学期の終了時に、この科目を受講している学生について、クラス毎にお知らせください。

・クラス別に5段階評価（1；悪い・乏しい～5；良い・熱心）で○をしてください。

| | 年 組 | 年 |
|-------------------------|-----------|-------|
| (1)はじめと終りの挨拶はできていましたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (2)学生の意欲はいかがでしたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (3)学生の受講態度はいかがでしたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (4)学生のノートの内容はいかがでしたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (5)学生の出席状況についてはいかがでしたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (6)学生からの質問はありましたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |
| (7)講義・実習はシラバス通りにすすみましたか | 1・2・3・4・5 | 1・2・3 |

・学生に関して何かお気づきの点などございましたらご記入ください。

・ご担当いただいている講義・実習について、ご意見・ご提案がありましたらご記入下さい。

| 実施内容 | 学生状況 |
|------|------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 実施内容 | 学生状況 |
|------|------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 実施内容 | 学生状況 |
|------|------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 実施内容 | 学生状況 |
|------|------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 組 |
|-------|
| }・4・5 |
| }・4・5 |
| }・4・5 |
| }・4・5 |
| }・4・5 |
| }・4・5 |
| }・4・5 |

| サイン |
|-----|
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |

| |
|-----|
| サイン |
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |
| 月 日 |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|---------|-------------|---|------|--------------------|---------------|
| 科 目 名 | 保育技術特講Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 合同校舎302教室 |
| 担 当 教 員 | 赤松 慶子 | 実務経験とその関連資格 | 大阪市の社会福祉法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担う。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 保育技術特講Ⅰで習得した保育技術を現場のニーズに応じた展開や実践ができるようにする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 定期試験 70% 2. 出席点 20% 3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 保育表現使用テキストや事前配布参考資料 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習として、必要なテキストや参考資料を事前にしっかり読み込む。内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| より現場に即した適切な保育ができる保育者になる。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法①の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法①の実践と展開 | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法②の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法②の実践と展開 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法③の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法③の実践と展開 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法④の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法④の実践と展開 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑤の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑤の実践と展開 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--------------------------|------|--------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑥の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑥の実践と展開 | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑦の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑦の実践と展開 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑧の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑧の実践と展開 | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑨の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑨の実践と展開 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑩の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑩の実践と展開 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑪の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑪の実践と展開 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑫の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑫の実践と展開 | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑬の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑬の実践と展開 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑭の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑭と実践の展開 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 学んだ保育技術の方法⑮の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑮の実践と展開 | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|------|--------------------|
| 第16回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑯の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑯の実践と展開 | | |
| 第17回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑰の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑰の実践と展開 | | |
| 第18回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑱の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑱の実践と展開 | | |
| 第19回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑲の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑲の実践と展開 | | |
| 第20回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑳の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑳の実践と展開 | | |
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉑の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉑の実践と展開 | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉒の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉒の実践と展開 | | |
| 第23回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉓の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉓の実践と展開 | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉔の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉔の実践と展開 | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉕の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉕の実践と展開 | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|------|--------------------|
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法⑳の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法⑳の実践と展開 | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉑の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉑の実践と展開 | | |
| 第28回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉒の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉒の実践と展開 | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉓の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉓の実践と展開 | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 学んだ保育技術の方法㉔の実践について説明出来る。 | 配布資料 | 必要な教科書や参考資料を事前に読む。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 保育技術の方法㉔の実践と展開 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 保健保育科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|---------|-----------------|--------------------------|----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 運動プログラム | | 必修/選択の別 | 選択 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜主2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 合同校舎302 |
| 担 当 教 員 | 織田 修輔 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 健康管理士一般指導員資格認定試験の合格に必要な知識について、「健康管理」に関する内容のほか、健康支援の現場において必要と考えられる能力を獲得することが出来る | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 『健康管理士一般指導員テキスト』特定非営利活動法人 日本成人病予防協会 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業終了時に示す課題に取り組むこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| この授業は健康管理士一般指導員資格試験の対策授業として行うものですが、その内容はこれから健康支援に携わる上で必要とされる知識および技術について学ぶものです。自らが積極的に学ぶ姿勢をもって授業に望んでください | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人体と環境の関連について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人体と環境(1) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人体と環境の関連について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人体と環境(2) | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 物理環境と健康の関連について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 物理環境と健康(1) | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 物理環境と健康の関連について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 物理環境と健康(2) | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 環境問題と健康について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 環境問題と健康 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|-------------------------------|----------------|---------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 環境問題と健康について説明することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地球規模での環境問題と健康 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 環境保全の重要性について理解を深めることが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 環境保全 | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動と健康の関連について説明でき運動プログラムを提案出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動と健康 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 薬剤知識を運動指導に活かすことが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 体を守る薬剤学 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 東洋医療全般について理解を深める | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 東洋医療 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 介護法について理解を深める | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 介護法 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 救急蘇生法の理解と救急蘇生が実践できるようになる | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 救急蘇生法 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 本授業で学んだ健康管理について説明、実践することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康管理士試験対策演習① | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 本授業で学んだ健康管理について説明、実践することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康管理士試験対策演習② | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 本授業で学んだ健康管理について説明、実践することが出来る | 健康管理士一般指導員テキスト | 授業終了時に示す課題を実施しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康管理士試験対策演習③ | | |